

第3部 16～19歳調査結果

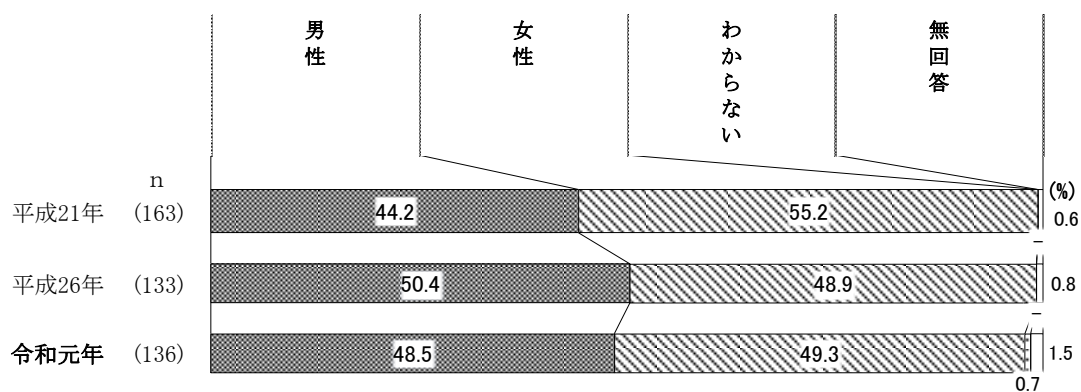
第3部 16～19歳調査結果

1 回答者自身について

(1) 性別

問1 性別をお答えください。(○は1つ)

回答者の性別は、「男性」が48.5%で、「女性」は49.3%、「わからない」が0.7%となっている。平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。



※「わからない」は、今回調査で新設。

(2) 年齢・学年

問2 年齢をご記入ください。また、学生なのか、社会人なのかについてもお答えください。

(○は1つ)

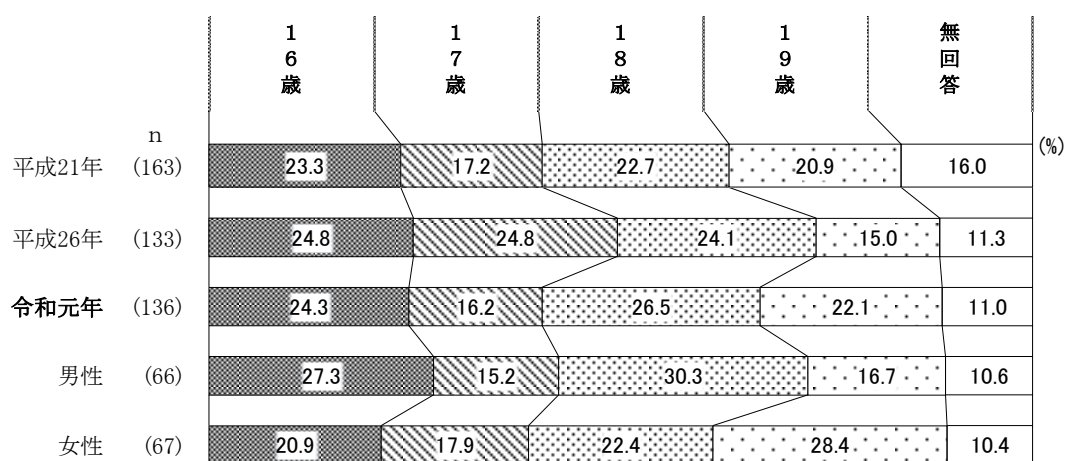
高校生の場合は、()に学年もご記入ください。

■年齢の内訳

回答者の年齢構成は、「16歳」が24.3%、「17歳」が16.2%、「18歳」が26.5%、「19歳」が22.1%となっている。

平成26年との比較で見ると、「19歳」が7.1ポイント増加し、「17歳」が8.6ポイント減少している。

性別で見ると、「16歳」と「18歳」は男性の方が女性よりそれぞれ6.4ポイント、7.9ポイント高く、「19歳」は女性の方が男性より11.7ポイント高くなっている。

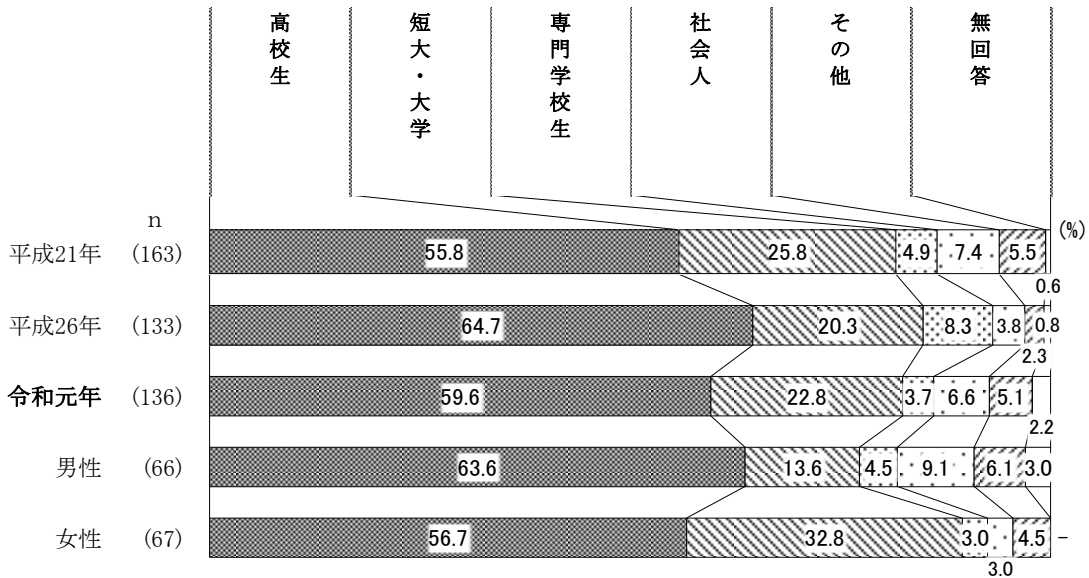


■学生と社会人の内訳

回答者の学生と社会人の内訳は、「高校生」が59.6%、「短大・大学」が22.8%、「専門学校生」が3.7%、「社会人」が6.6%となっている。

平成26年との比較でみると、「高校生」が5.1ポイント減少している。

性別でみると、「短大・大学」は女性の方が男性より19.2ポイント高くなっている。

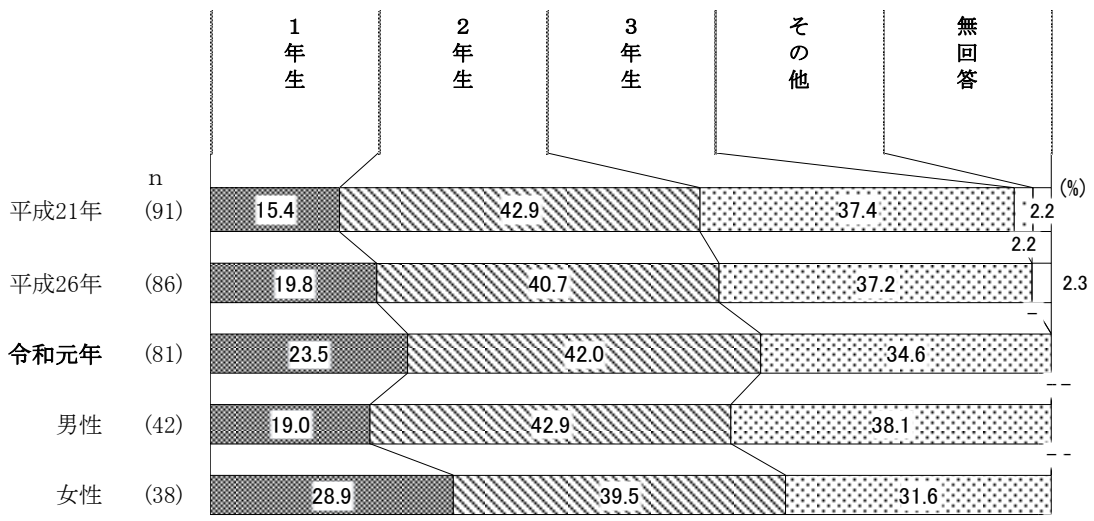


■高校生の学年内訳

回答者（高校生）の学年構成は、「1年生」が23.5%、「2年生」が42.0%、「3年生」が34.6%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「1年生」で女性の方が男性より9.9ポイント、「3年生」で男性の方が女性より6.5ポイント高くなっている。

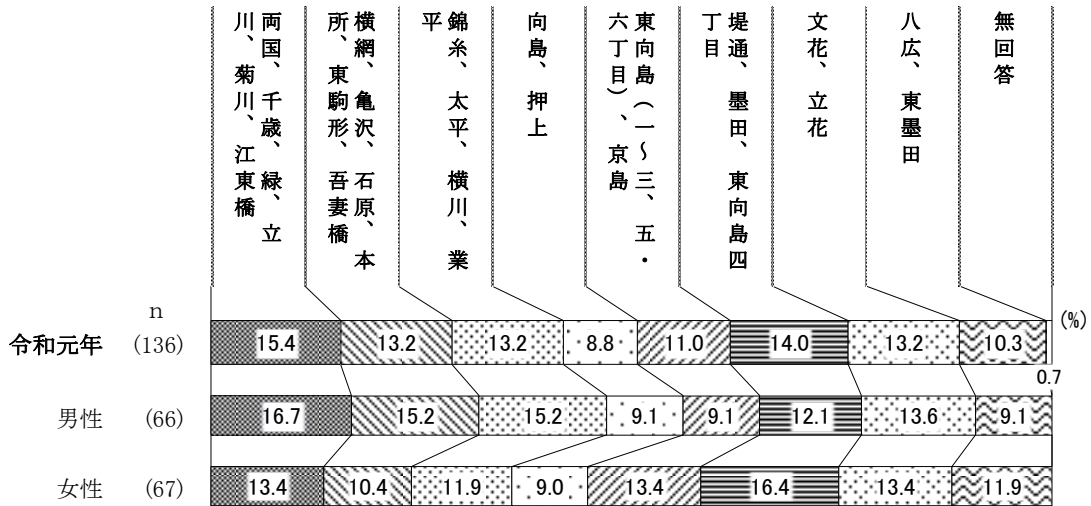


(3) 居住地

問3 お住まいの居住地をお答えください。(〇は1つ)

回答者の居住地は、「両国、千歳、緑、立川、菊川、江東橋」が15.4%、「堤通、墨田、東向島四丁目」が14.0%などとなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。



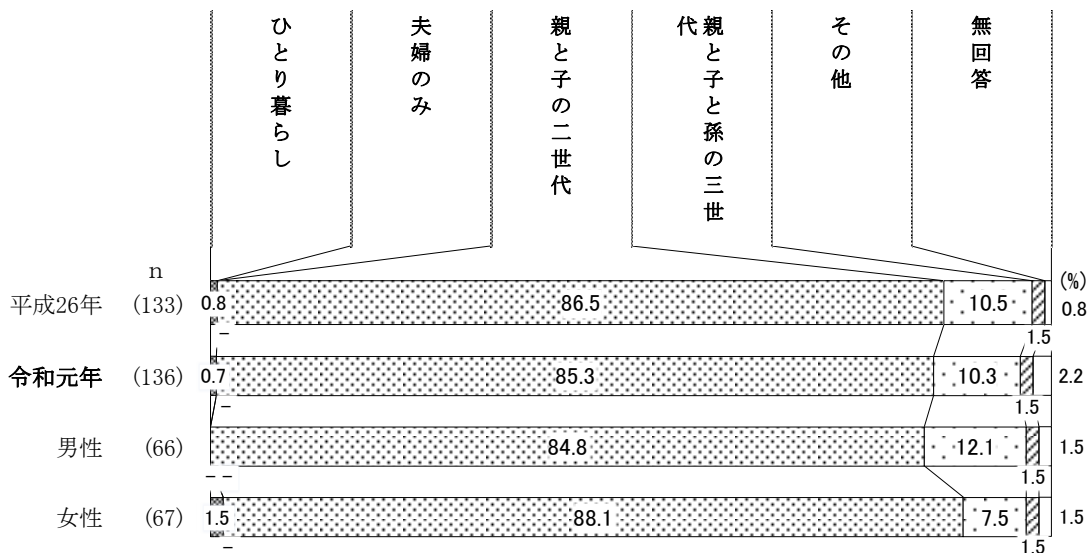
(4) 世帯構成

問4 世帯構成をお答えください。(〇は1つ)

回答者の世帯構成は、「親と子の二世帯」が85.3%を占めており、「親と子と孫の三世帯」は10.3%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でも、特に大きな違いはみられない。

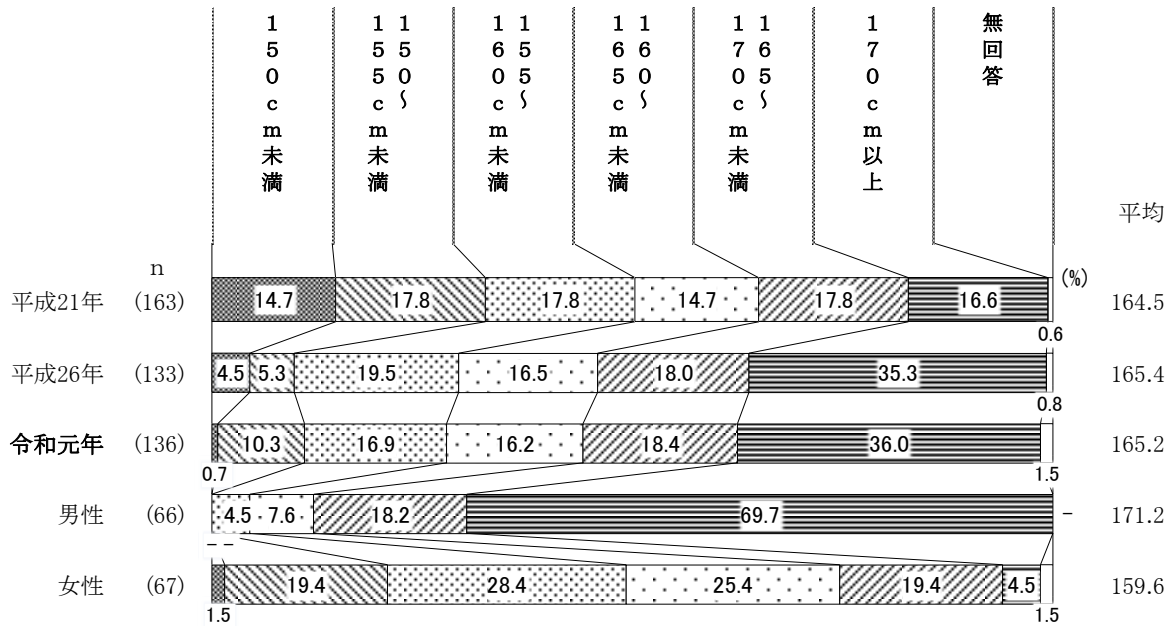


(5) 身長・体重・BMI

問5 およその身長、体重を整数で教えてください。

■身長

身長は、平均が165.2cmで、構成比は「170cm以上」が36.0%、「165～170cm未満」が18.4%、「155～160cm未満」が16.9%、「160～165cm未満」が16.2%などとなっている。
 前回との比較では、平均で0.2cm低くなっており、「150～155cm未満」が5.0ポイント増加した。
 性別で見ると、男性の平均は171.2cmで、女性の平均は159.6cmとなっている。

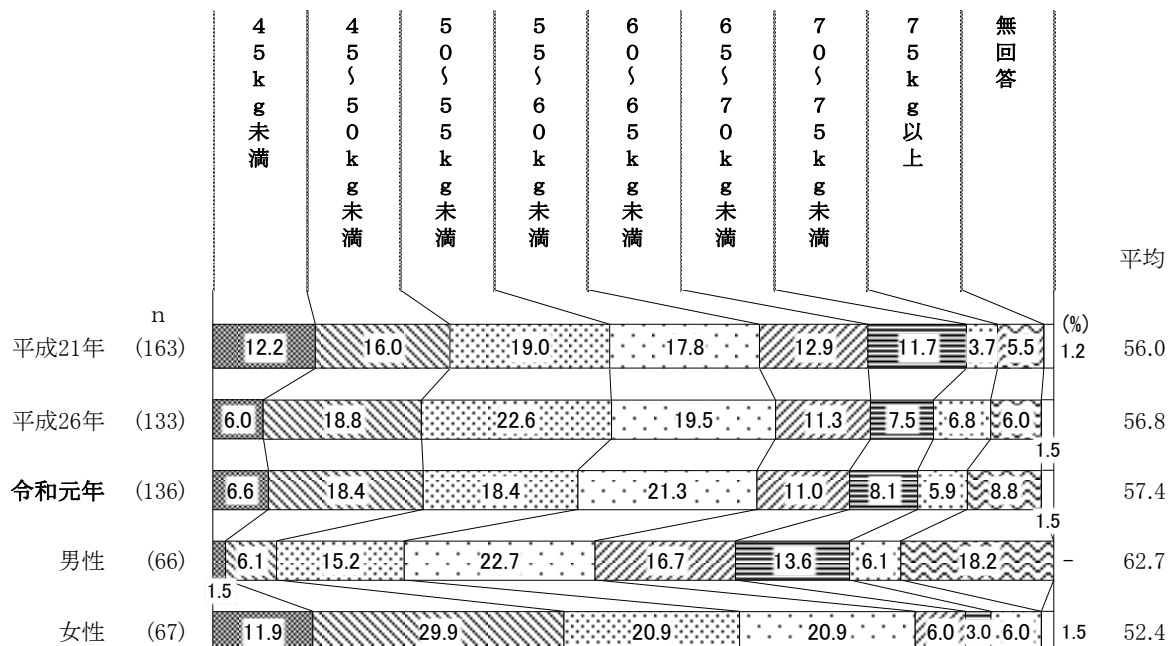


■体重

体重は、平均が57.4kgで、構成比は「55～60kg未満」が21.3%、「45～50kg未満」「50～55kg未満」がともに18.4%などとなっている。

平成26年との比較では、平均で0.6kg増加している。

性別で見ると、男性の平均は62.7kg、女性の平均は52.4kgとなっている。



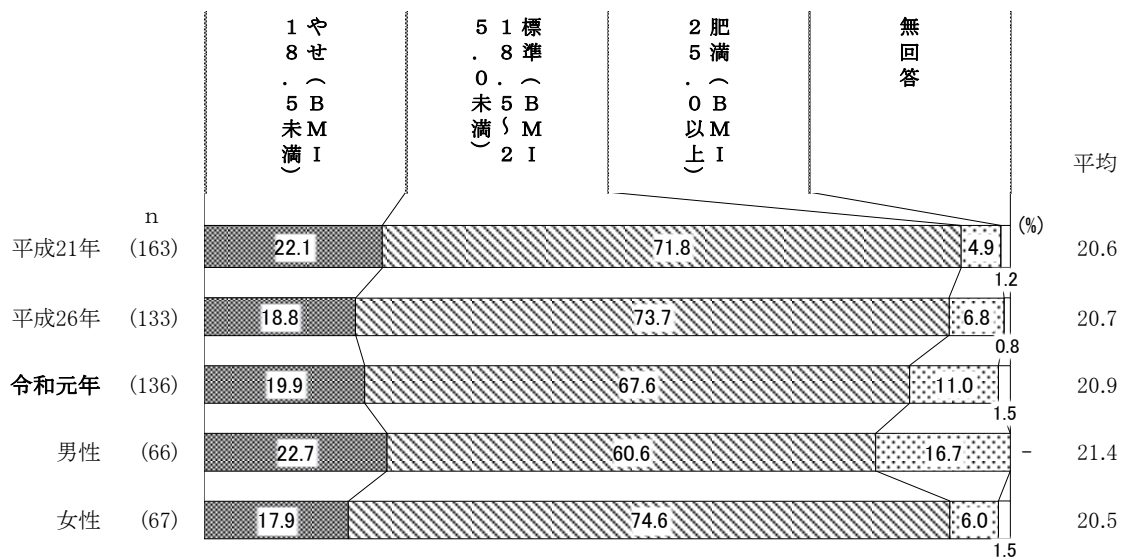
■BMI

身長と体重の結果をもとにBMIを算出した結果、平均は20.9となっている。構成比は「やせ（BMI 18.5未満）」が19.9%、「標準（BMI 18.5以上～25.0未満）」が67.6%、「肥満（BMI 25.0以上）」が11.0%となっている。

平成26年との比較では、平均に大きな違いはみられないが、「標準（BMI 18.5以上～25.0未満）」が6.1ポイント減少している。

性別でみると、男性の平均は21.4で、女性の平均は20.5である。

構成比については、「肥満（BMI 25.0以上）」は男性の方が女性より10.7ポイント高くなっている。



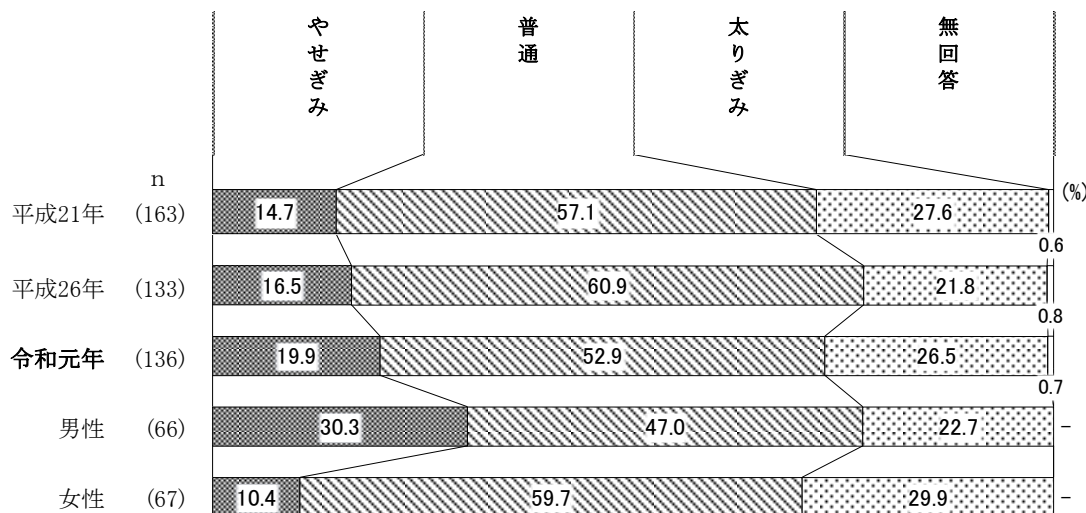
(6) 自分の体型への理解

問6 あなたは、自分の体型についてどう思いますか。(〇は1つ)

自分の体型については、「普通」が52.9%で最も高く、「太りぎみ」が26.5%、「やせ」が19.9%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

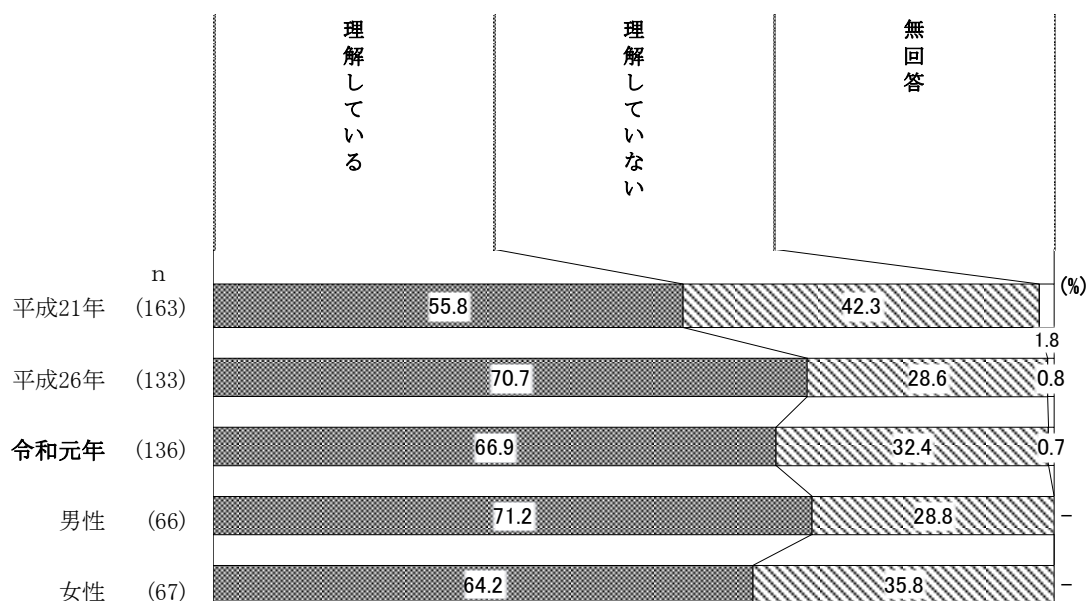
性別でみると、「やせぎみ」は男性の方が19.9ポイント高く、「普通」「太りぎみ」は女性のほうがそれぞれ12.7ポイント、7.2ポイント高くなっている。



回答者自身の自分の体型への理解と、実際のBMIの状況の一致状況について集約してみた。全体では「理解している」が66.9%で、「理解していない」が32.4%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「理解している」は男性の方が女性より7.0ポイント高くなっている。



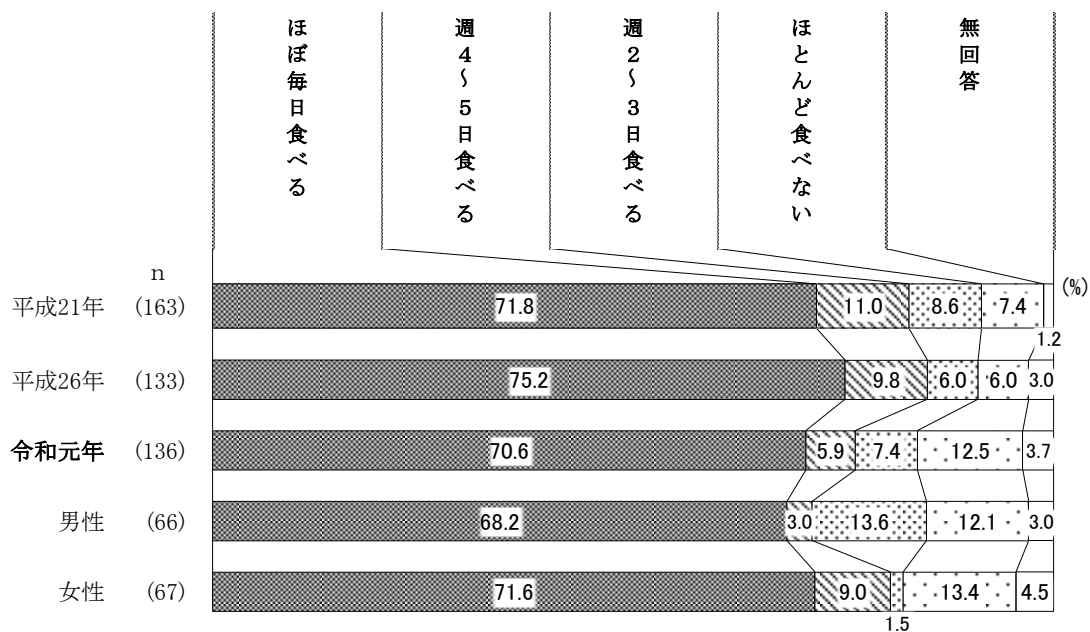
(1) 朝食の頻度

問7 あなたは、朝食を1週間にどの程度とっていますか。(〇は1つ)

朝食の頻度は、「ほぼ毎日食べる」が70.6%を占めている。一方、「週2～3日食べる」(7.4%)と「ほとんど食べない」(12.5%)を合わせた《週4日以上朝食を欠食》は19.9%となっている。

平成26年との比較では、《週4日以上朝食を欠食》が7.9ポイント増加している。

性別でみると、《週4日以上朝食を欠食》は男性の方が女性より10.8ポイント高くなっている。



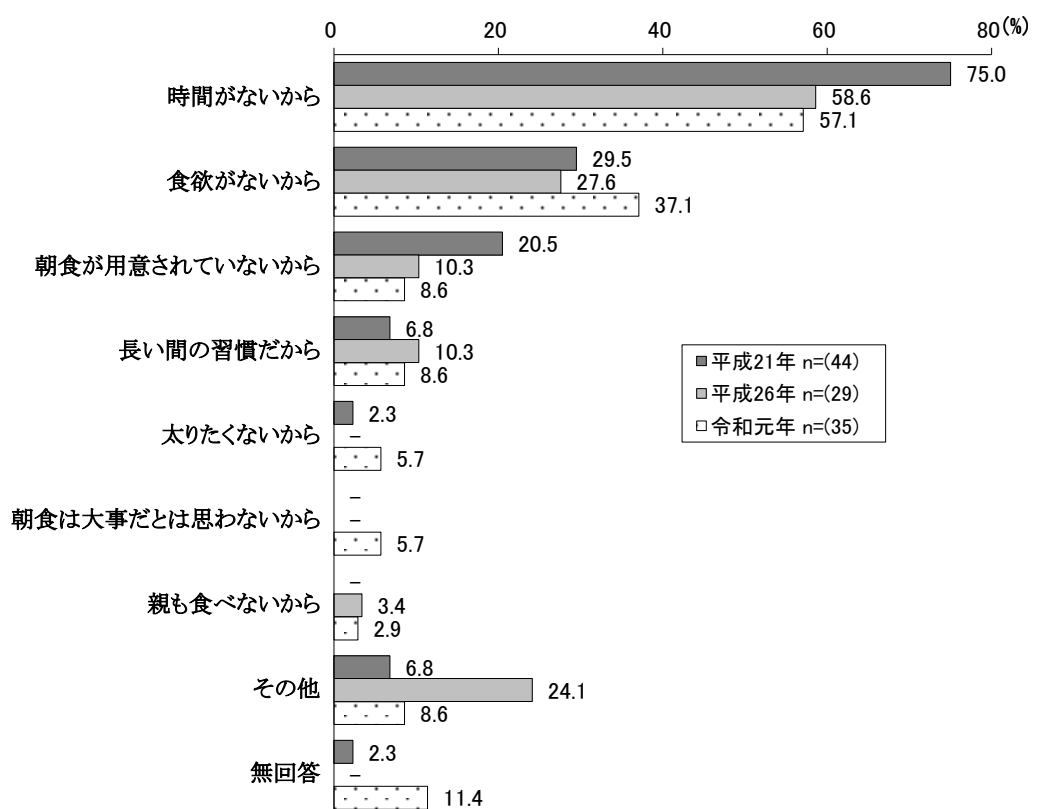
(1-1) 朝食を食べないことがある理由

付問7-1 朝食を食べないことがある理由は何ですか。(〇はいくつでも)

朝食を「週4～5日食べる」、「週2～3日食べる」、「ほとんど食べない」のいずれかを回答した方に、朝食を食べないことがある理由をたずねた。その結果、「時間がないから」が57.1%で最も高く、次いで「食欲がないから」が37.1%となっている。

平成26年との比較では、「食欲がないから」が9.5ポイント増加し、また、「太りたくないから」「朝食は大事だとは思わないから」も5.7ポイント増加している。

性別では、nが少ないため参考までに掲載する。



単位：%

	n	時間がないから	食欲がないから	朝食が用意されていないから	長い間の習慣だから	太りたくないから	朝食は大事だとは思わないから	親も食べないから	その他	無回答
令和元年	35	57.1	37.1	8.6	8.6	5.7	5.7	2.9	8.6	11.4
性別 男性	19	68.4	47.4	5.3	15.8	5.3	10.5	-	5.3	-
性別 女性	16	43.8	25.0	12.5	-	6.3	-	6.3	12.5	25.0

(2) 朝食や夕食を一緒に食べる相手

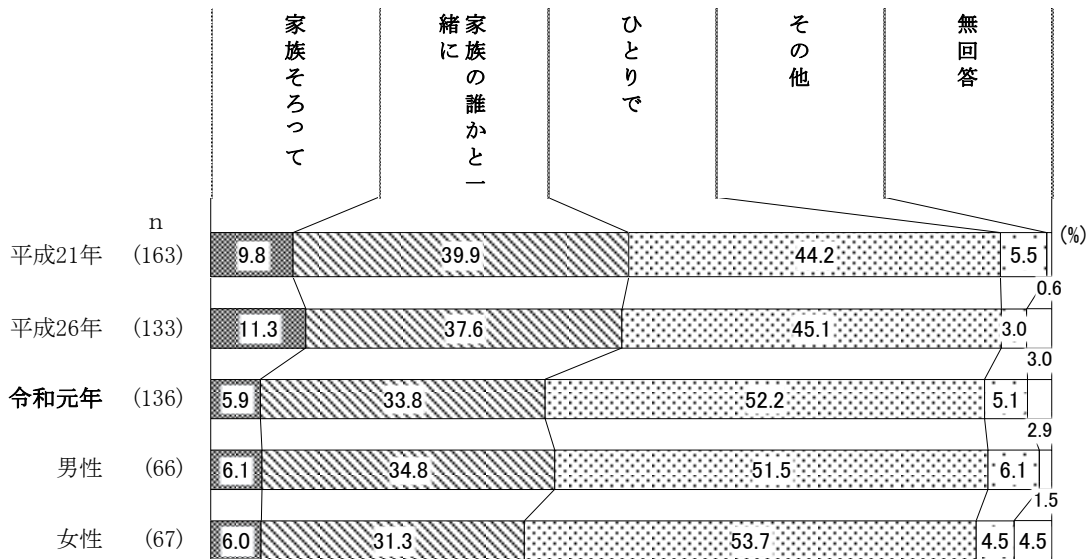
問8 あなたは、朝食や夕食を誰と一緒に食べますか。(それぞれ○は1つ)

■朝食

朝食を一緒に食べる相手は、「ひとりで」が52.2%で最も高く、次いで「家族の誰かと一緒に」が33.8%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でも、特に大きな違いはみられない。

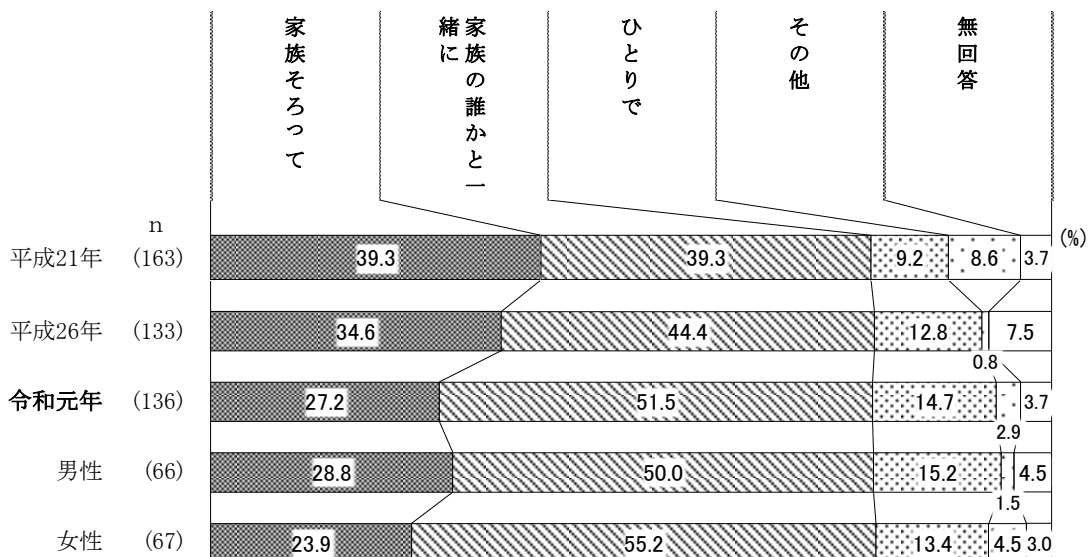


■夕食

夕食を一緒に食べる相手は、「家族の誰かと一緒に」が51.5%で最も高く、次いで「家族そろって」が27.2%となっている。「ひとりで」は14.7%となっている。

平成26年との比較では、「家族の誰かと一緒に」が7.1ポイント増加した一方、「家族そろって」が7.4ポイント減少している。

性別で見ると、「家族の誰かと一緒に」は女性の方が男性より5.2ポイント高くなっている。

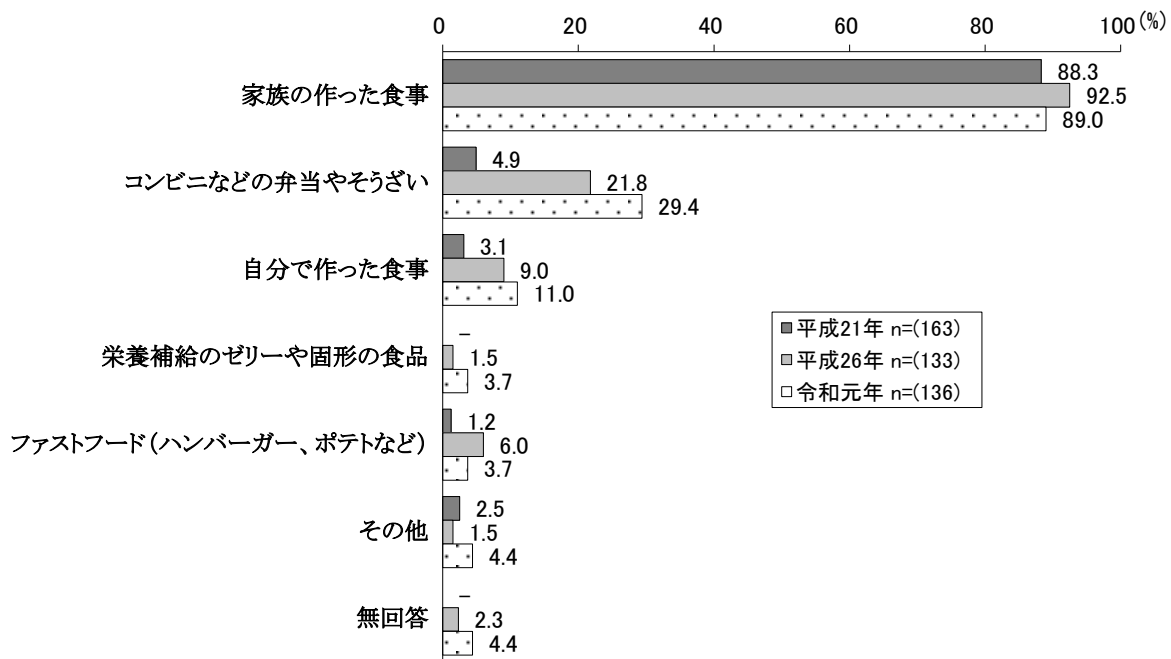


(3) 普段の食事内容

問9 あなたは、普段どんな食事をとっていますか。多いものを選んでください。
(〇は2つまで)

普段の食事内容は、「家族の作った食事」が89.0%で最も高く、次いで「コンビニなどの弁当やそうざい」が29.4%となっている。

平成26年との比較では、「コンビニなどの弁当やそうざい」が7.6ポイント増加している。性別で見ると、「家族の作った食事」は男性の方が女性より5.8ポイント高くなっている。一方、「自分で作った食事」と「コンビニなどの弁当やそうざい」は女性の方が男性よりそれぞれ16.4ポイント、5.5ポイント高くなっている。



単位：%

	n	家族の作った食事	コンビニなどの弁当やそうざい	自分で作った食事	栄養補給のゼリーや固形の食品	ファストフード(ハンバーガー、ポテトなど)	その他	無回答
令和元年	136	89.0	29.4	11.0	3.7	3.7	4.4	4.4
性別 男性	66	92.4	25.8	3.0	6.1	4.5	4.5	3.0
別 女性	67	86.6	31.3	19.4	1.5	3.0	4.5	4.5

※平成21年調査では回答個数が1つ(〇はひとつ)のため、参考として掲載している。

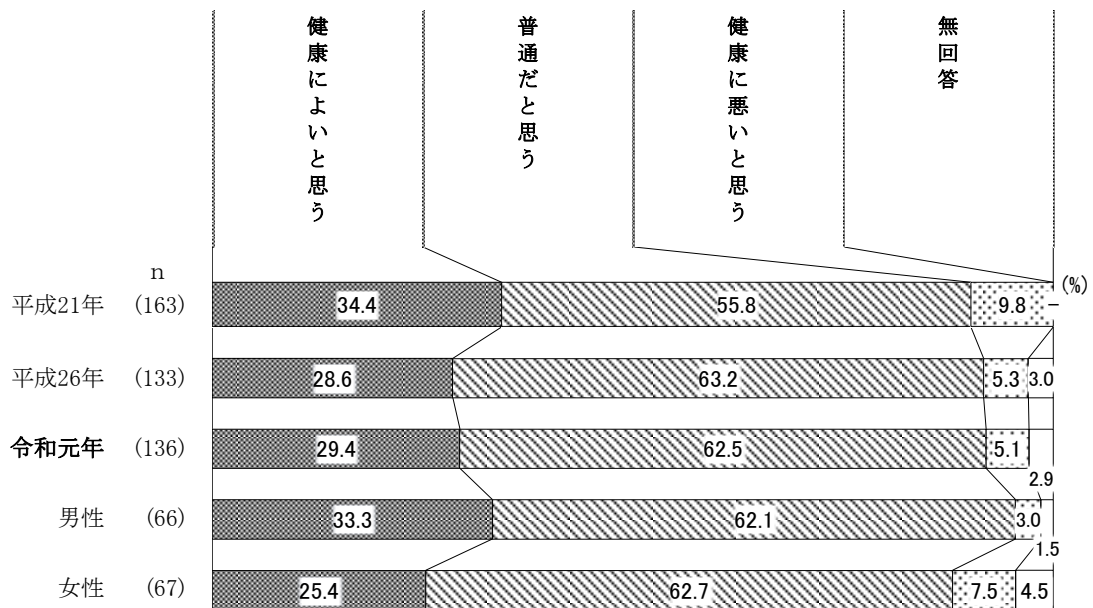
(4) 自分の食事に対する意識

問10 あなたは、今の自分の食事は、健康によいと思いますか。(〇は1つ)

今の自分の食事は、「普通だと思う」が62.5%で最も高く、次いで「健康によいと思う」が29.4%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「健康によいと思う」は男性の方が女性より7.9ポイント高くなっている。



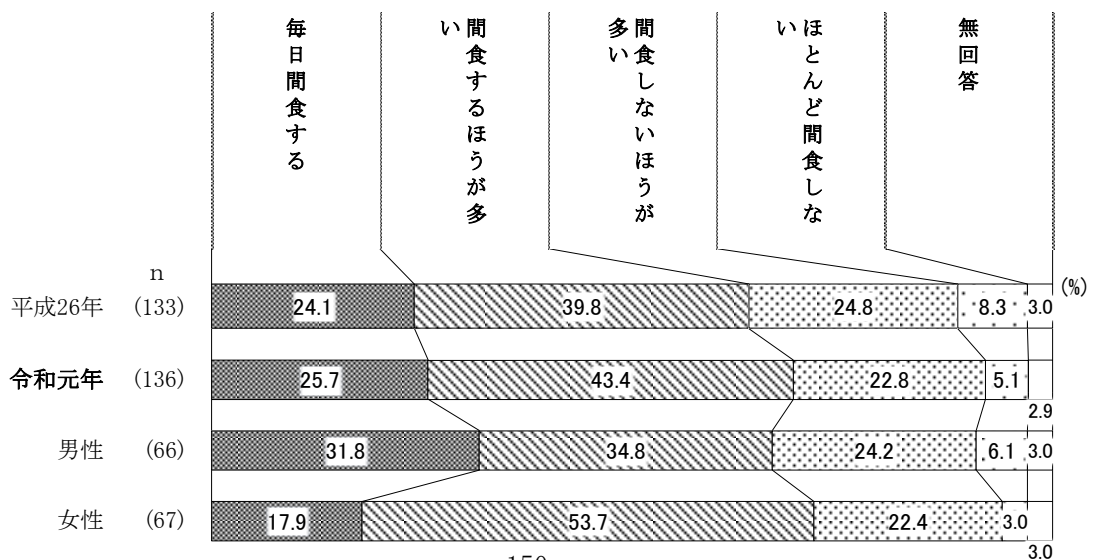
(5) 間食の頻度

問11 あなたは、間食をしますか。(〇は1つ)

間食については、「間食をするほうが多い」が43.4%で最も高く、「毎日間食する」(25.7%)を合わせた《よく間食する》は69.1%となる。

平成26年との比較でみると、《よく間食する》は5.2ポイント増加している。

性別でみると、《よく間食する》は女性の方が男性より5.0ポイント高くなっている。



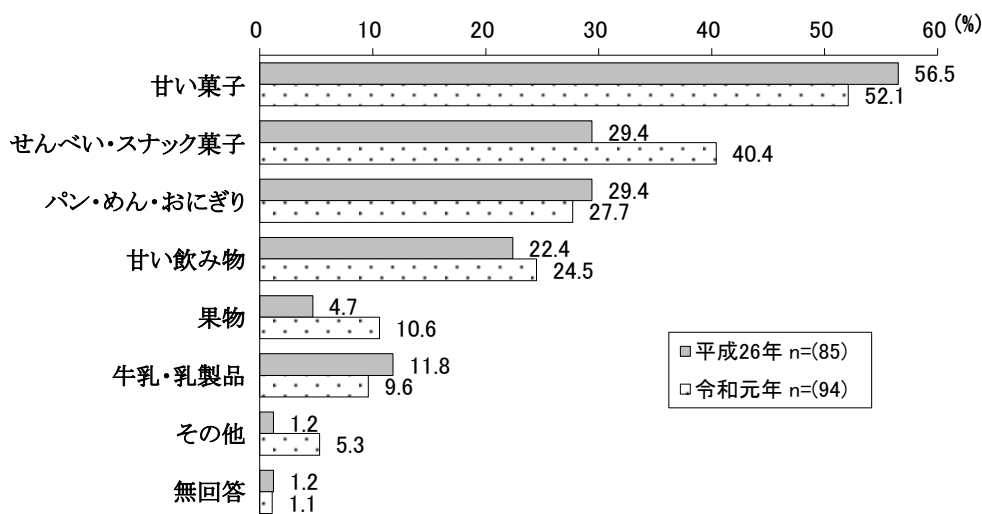
(5-1) 間食でよく食べるもの

付問11-1 間食でよく食べるものは何ですか。(〇は2つまで)

「毎日間食する」「間食するほうが多い」と回答した方が間食でよく食べるものは、「甘い菓子」が52.1%で最も高く、次いで「せんべい・スナック菓子」が40.4%、「パン・めん・おにぎり」が27.7%となっている。

平成26年との比較では、「せんべい・スナック菓子」が11.0ポイント「果物」が5.9ポイント増加している。

性別でみると、「甘い菓子」は女性の方が男性より34.7ポイント高く、「パン・めん・おにぎり」は男性の方が女性より33.0ポイント高くなっている。



単位: %

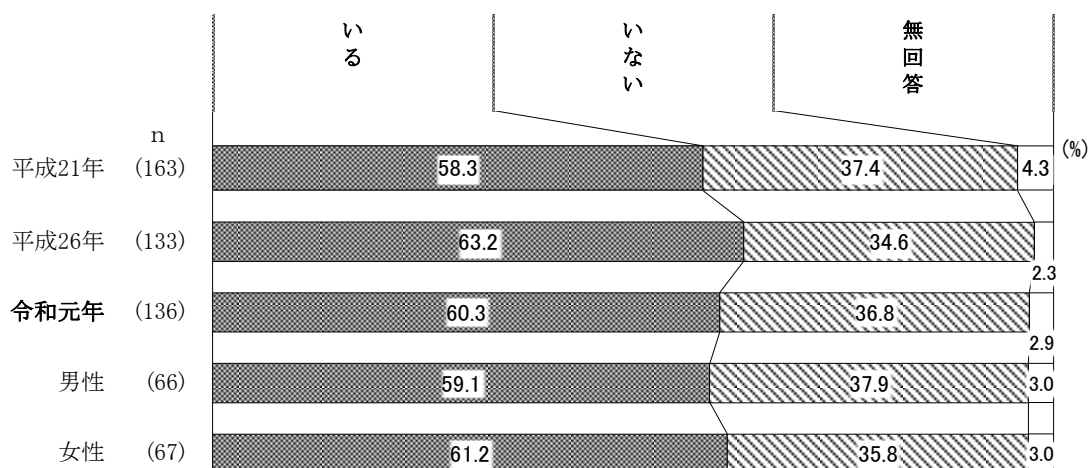
	n	甘い菓子	せんべい・スナック菓子	パン・めん・おにぎり	甘い飲み物	果物	牛乳・乳製品	その他	無回答
令和元年	94	52.1	40.4	27.7	24.5	10.6	9.6	5.3	1.1
性別									
男性	44	34.1	40.9	45.5	22.7	9.1	9.1	2.3	-
女性	48	68.8	41.7	12.5	25.0	12.5	10.4	6.3	2.1

2 歯の健康について

(1) かかりつけ歯科医の有無

問12 あなたには、かかりつけ歯科医がいますか。(〇は1つ)

かかりつけ歯科医がいるかについては、「いる」が60.3%、「いない」は36.8%となっている。平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。性別でも、特に大きな違いはみられない。



※平成21年では、設問文は“いつも行く歯医者さんがありますか。”としていた。

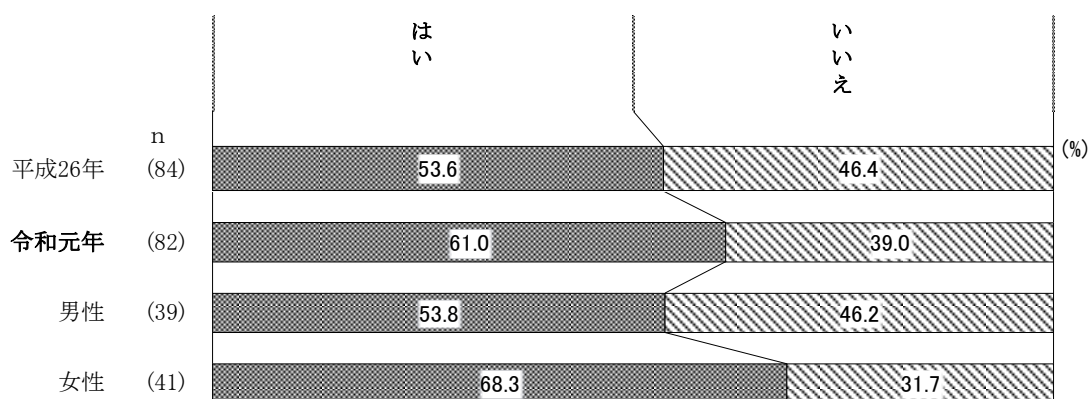
(1-1) 治療以外でかかりつけ歯科医の受診状況

付問12-1 その歯科医で、この1年間、治療のほかに、歯科健診、歯みがき指導、フッ素塗布、歯石除去などの診査や処置を受けましたか。(〇は1つ)

かかりつけ歯科医での治療以外の受診状況は、「はい」が61.0%で高く、「いいえ」が39.0%となっている。

平成26年との比較では、「はい」が7.4ポイント増加している。

性別で見ると、「はい」は女性の方が男性より14.5ポイント高くなっている。



3 日ごろの生活について

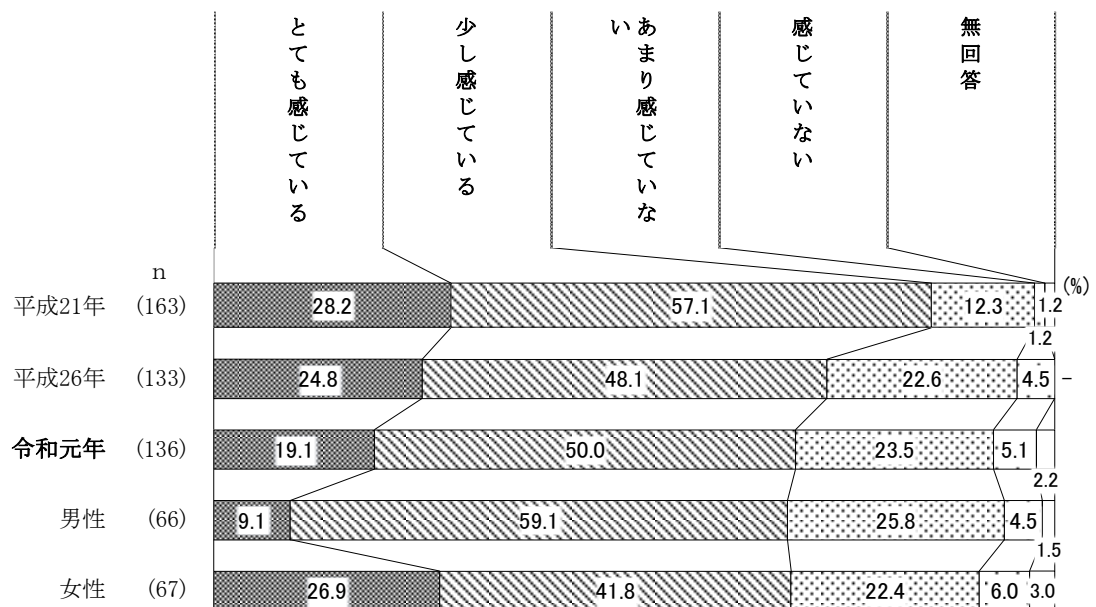
(1) イライラや疲れを感じる程度

問13 あなたは、イライラや疲れを普段感じていますか。(○は1つ)

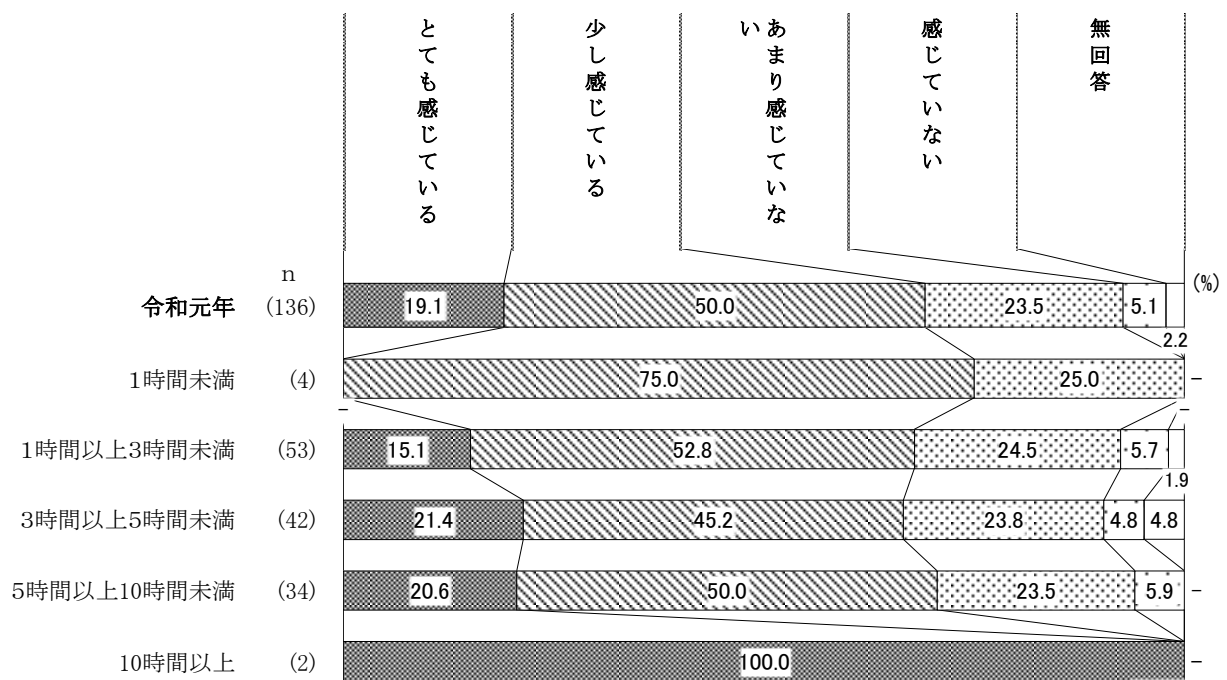
イライラや疲れを感じる程度について、「少し感じている」が50.0%で最も高く、「とても感じている」(19.1%)を合わせた《感じている》は69.1%となる。

前回との比較では、「とても感じている」は5.7ポイント減少している。

性別でみると、《感じている》に大きな違いはないが、「とても感じている」は女性の方が男性より17.8ポイント高くなっている。



インターネットの利用時間別でみると、「とても感じている」は3時間以上になると2割を超える。



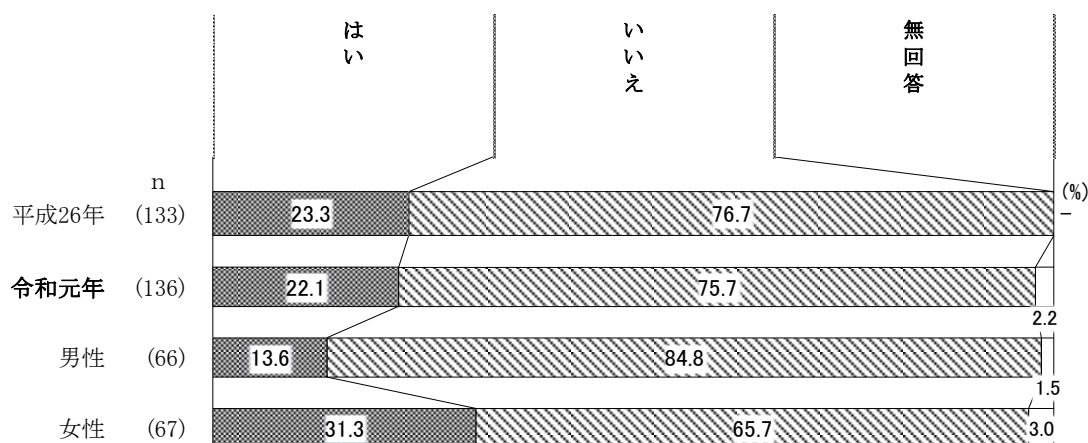
(2) 保健センターで、こころや体の健康に関する相談ができることの認知度

問14 あなたは、保健センターで、こころや体の健康に関する相談ができることを知っていますか。(○は1つ)

保健センターで、こころや体の健康に関する相談ができることの認知は、「はい」は22.1%、「いいえ」は75.7%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「はい」は女性の方が男性より17.7ポイント高くなっている。



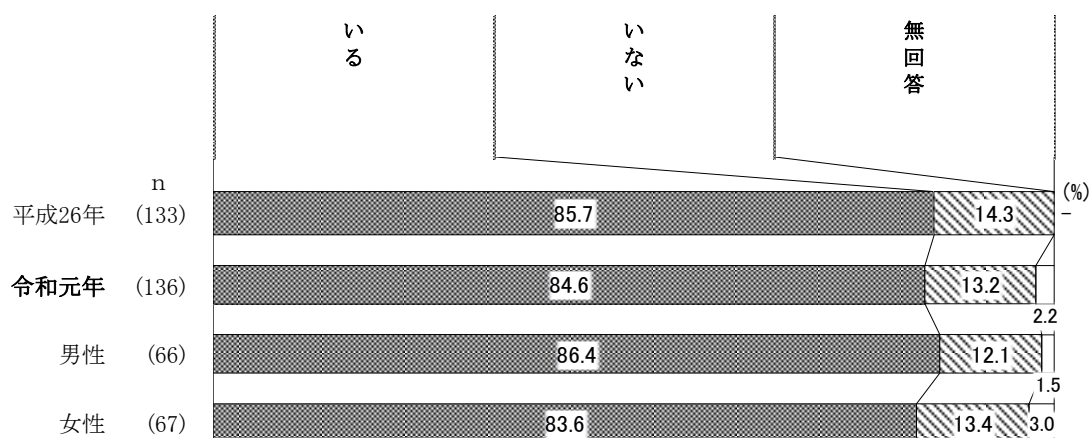
(3) 悩みの相談相手の有無

問15 あなたは、普段、何か困ったことや心配ごとがある場合、気軽に相談できる人がいますか。(○は1つ)

気軽に相談できる人の有無について、「いる」は84.6%、「いない」は13.2%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でも、特に大きな違いはみられない。

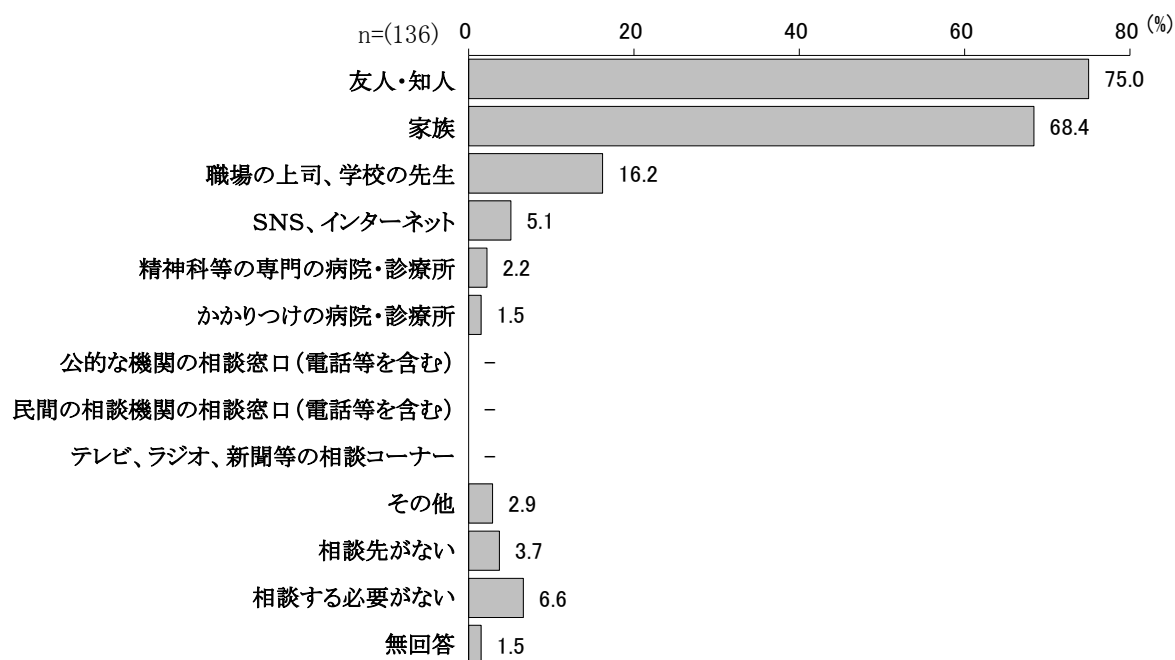


(4) 悩みの相談相手（先）

問16 あなたは、だれ（どこ）に悩みを相談しますか。（〇はいくつでも）

悩みの相談相手（先）は、「友人・知人」が75.0%で最も高く、次いで「家族」が68.4%、「職場の上司、学校の先生」が16.2%となっている。

性別でみると、「友人・知人」は女性の方が男性より13.9ポイント高く、一方、「職場の上司、学校の先生」は男性の方が女性より12.3ポイント高くなっている。



単位：%

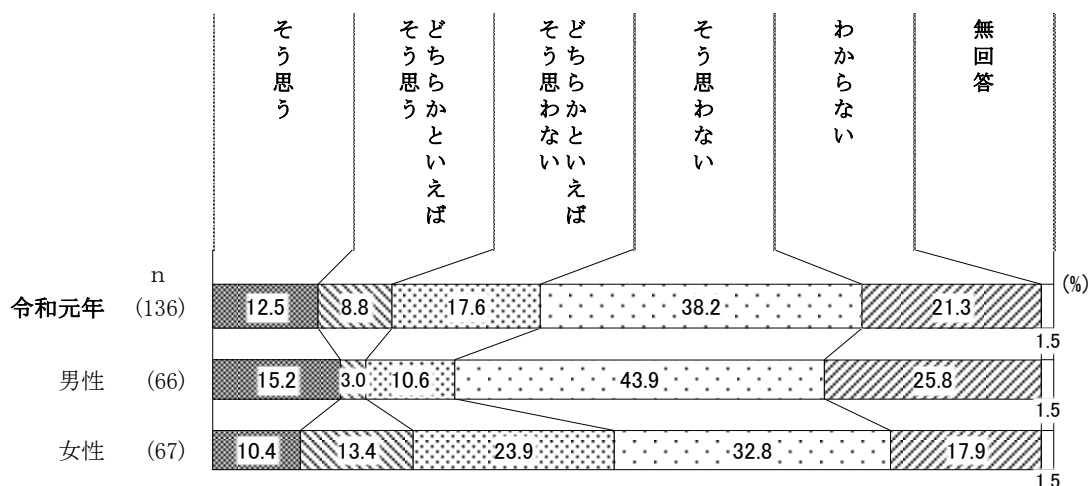
	n	友人・知人	家族	職場の上司、学校の先生	SNS、インターネット	精神科等の専門の病院・診療所	かかりつけの病院・診療所	公的な機関の相談窓口（電話等を含む）	民間の相談機関の相談窓口（電話等を含む）	テレビ、ラジオ、新聞等の相談コーナー	その他	相談先がない	相談する必要がない	無回答
令和元年	136	75.0	68.4	16.2	5.1	2.2	1.5	-	-	-	2.9	3.7	6.6	1.5
性 男性	66	68.2	68.2	22.7	3.0	3.0	3.0	-	-	-	3.0	4.5	7.6	1.5
別 女性	67	82.1	68.7	10.4	7.5	1.5	-	-	-	-	3.0	3.0	4.5	1.5

(5) 自殺対策が自分自身に関わるという考え

問17 自殺対策は自分自身に関わることだと思いますか。(○は1つ)

自殺対策が自分自身に関わるという考えは、「そう思わない」が38.2%で最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(17.6%)と合わせた《思わない》は55.8%である。「わからない」は21.3%である。

性別でみると、「そう思わない」は男性の方が女性より11.1ポイント高くなっている。



(6) 起床時間と就寝時間

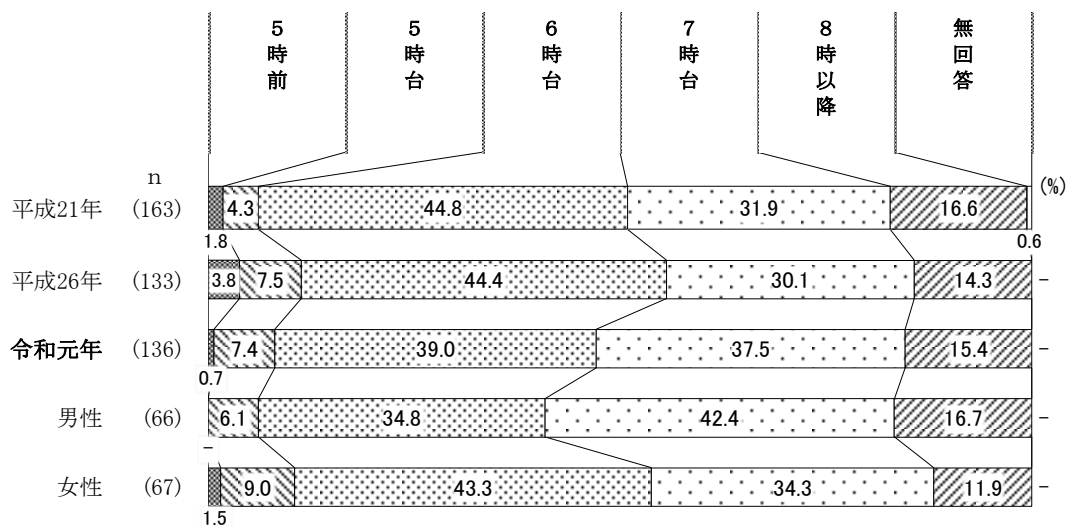
問18 あなたは、普段、何時に起きますか、また、寝ていますか。

①起きる時間 (○は1つ) ②寝る時間 (○は1つ)

①起床時間

起床時間を構成比で見ると、「6時台」が39.0%、「7時台」が37.5%、「8時以降」が15.4%などとなっている。

平成26年との比較では、「7時台」は7.4ポイント増加、「6時台」は5.4ポイント減少している。性別で見ると、「6時台」は女性の方が男性より8.5ポイント高くなっている。

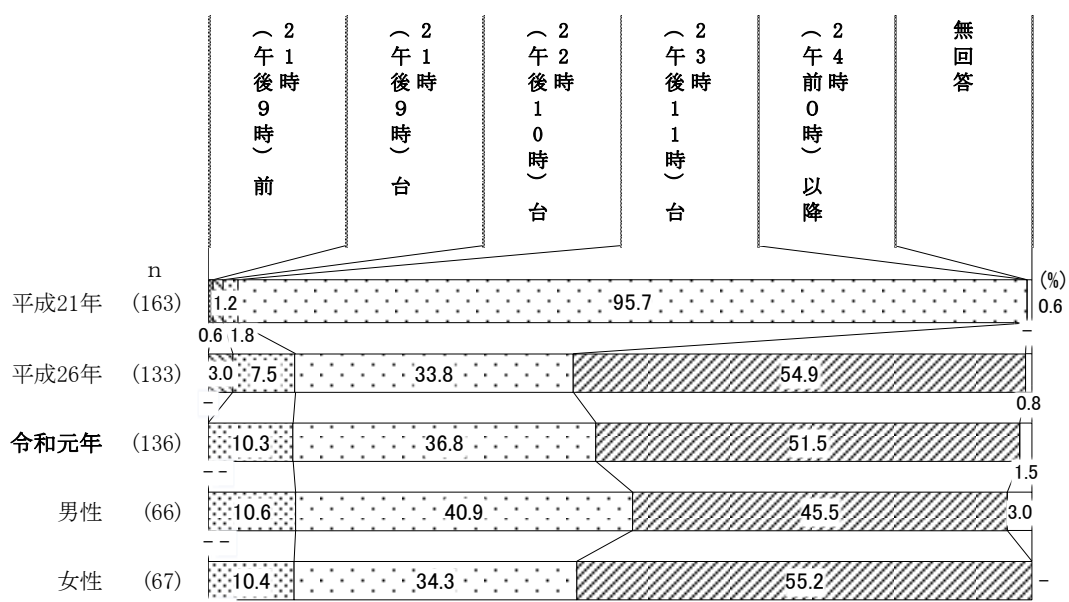


②就寝時間

就寝時間は、「24時 (午前0時) 以降」が51.5%で最も高く、「23時 (午後11時) 台」(36.8%)と合わせた《23時 (午後11時) 以降》が88.3%となる。

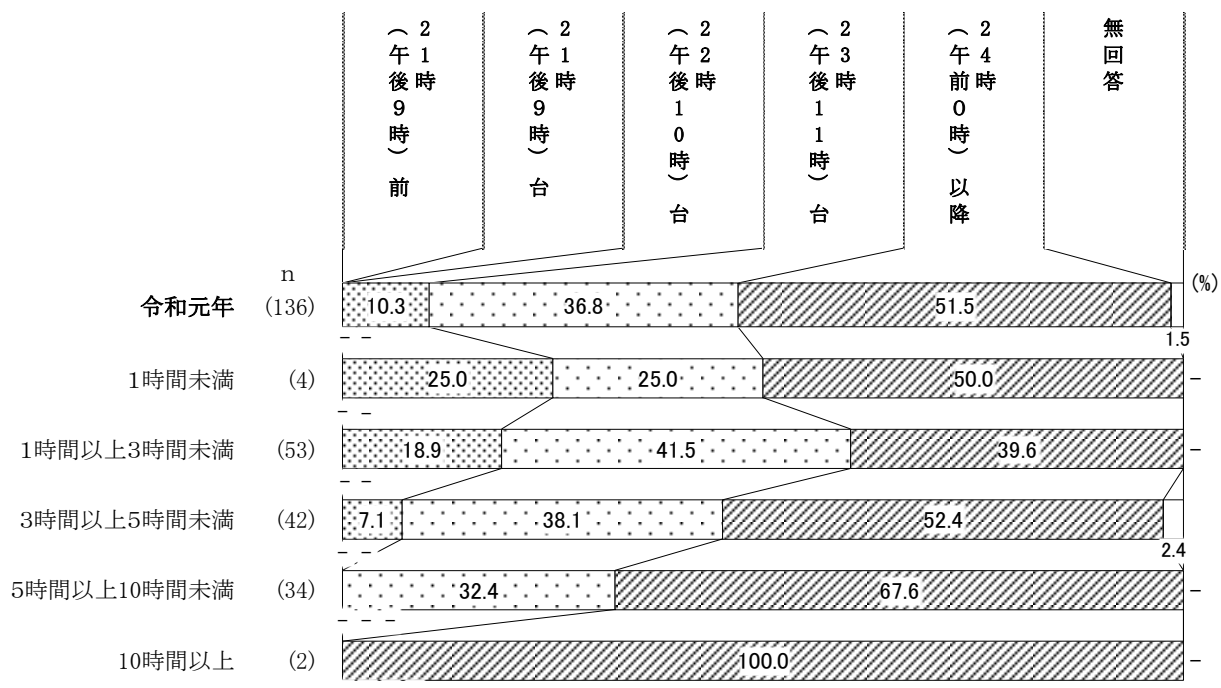
平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別では、「24時 (午前0時) 以降」は女性の方が男性より9.7ポイント高くなっている。



※平成21年調査の選択肢には「24時 (午前0時) 以降」はなく、「23時 (午後11時) 以降」となっている。

インターネットの利用時間別でみると、「24時（午前0時）以降」はインターネットの利用時間が長いほど割合が高くなる傾向にある。



(6-1) 就寝時間が24時以降になってしまう理由

付問18-1 寝る時間が24時（午前0時）以降になってしまう理由をご記入ください。

「24時（午前0時）以降」と回答した方に、寝る時間が24時（午前0時）以降になってしまう理由を自由記述でたずねたところ、以下の回答が得られた。

(計94件)

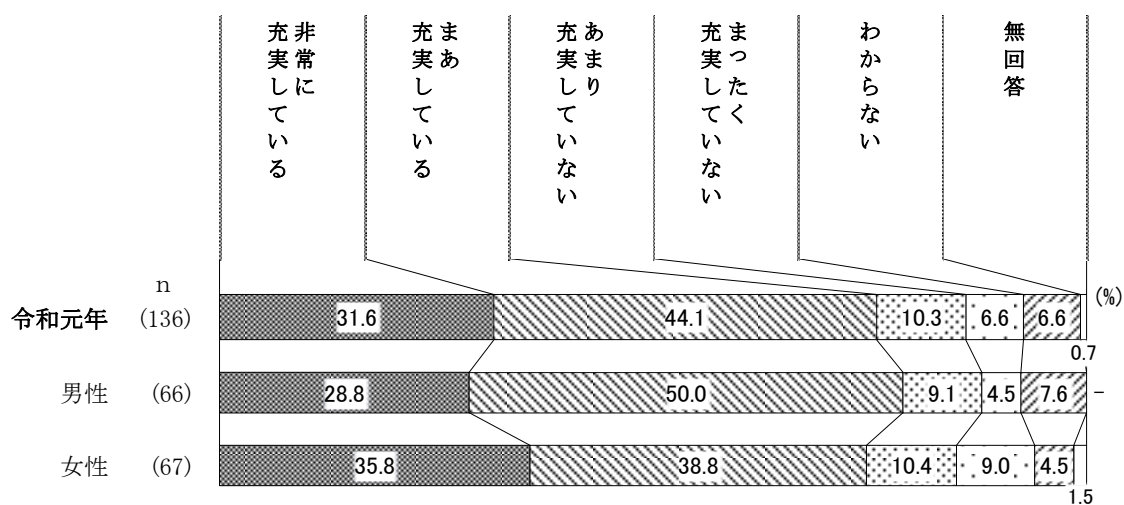
1. 勉強、宿題、レポート	24
2. 仕事、アルバイト	18
3. スマホ（ゲームと特定できないもの）	9
4. 風呂、食事、家事	7
5. 習慣、何となく、いろいろ	6
6. ゲーム	4
6. 趣味	4
6. （単に）帰宅が遅い	4
9. 塾、習い事	3
9. 眠れない、眠くない	3
9. 学校	3
9. 遊び	3
13. テレビ	1
13. 部活	1
15. その他	4

(7) 余暇の過ごし方の充実度

問19 あなたは、体を休めること以外に、趣味や運動、スポーツ、学習活動、地域活動などの余暇の過ごし方は充実していますか。(〇は1つ)

余暇の過ごし方の充実度は、「まあ充実している」が44.1%と高く、「非常に充実している」(31.6%)を合わせた《充実している》は75.7%となる。一方、「あまり充実していない」(10.3%)と「まったく充実していない」(6.6%)を合わせた《充実していない》は16.9%となる。

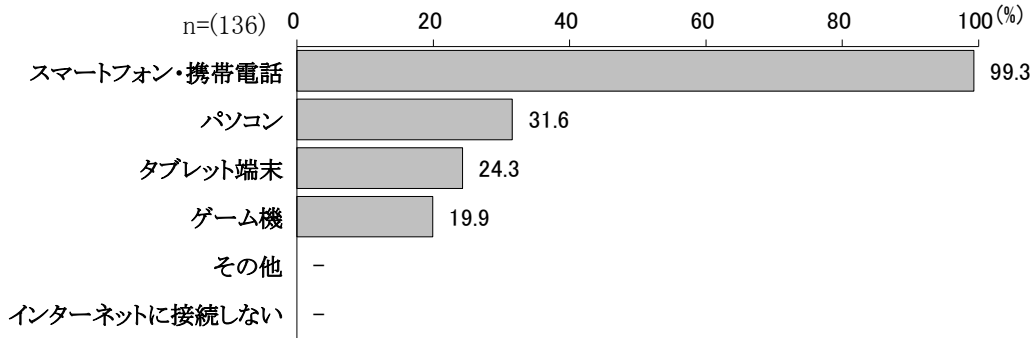
性別でみると、《充実していない》は女性の方が男性より5.8ポイント高くなっている。



(8) インターネット接続機器利用状況

問20 あなたは、学業や仕事での使用を除き、どのインターネット接続機器を使用していますか。(〇はいくつでも)

インターネット接続機器利用状況は、「スマートフォン・携帯電話」が99.3%を占めている。性別でみると、「ゲーム機」は男性の方が女性より16.9ポイント高くなっている。



単位：%

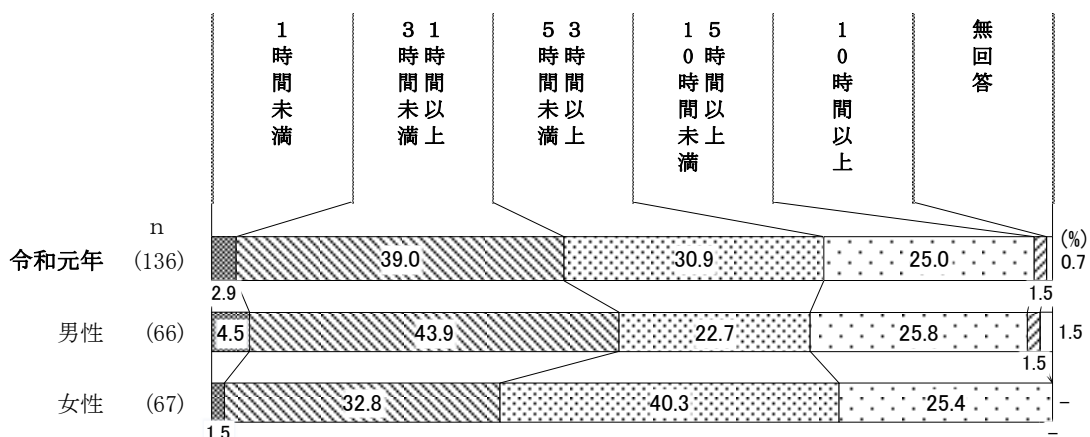
	n	スマートフォン・携帯電話	パソコン	タブレット端末	ゲーム機	その他	インターネットに接続しない
令和元年	136	99.3	31.6	24.3	19.9	-	-
性別 男性	66	98.5	28.8	22.7	28.8	-	-
性別 女性	67	100.0	35.8	26.9	11.9	-	-

(9) インターネットの利用時間

付問20-1 学業や仕事での使用を除き、インターネットを1日どの程度利用していますか。(〇は1つ)

インターネット接続機器利用状況で何かしらの機器を利用している人にインターネットの利用時間を聞いた結果、「1時間以上3時間未満」が39.0%で最も高く、次いで「3時間以上5時間未満」が30.9%、「5時間以上10時間未満」が25.0%となっている。

性別でみると、「3時間以上5時間未満」は女性の方が男性より17.6ポイント高くなっている。



4 身体を動かすことについて

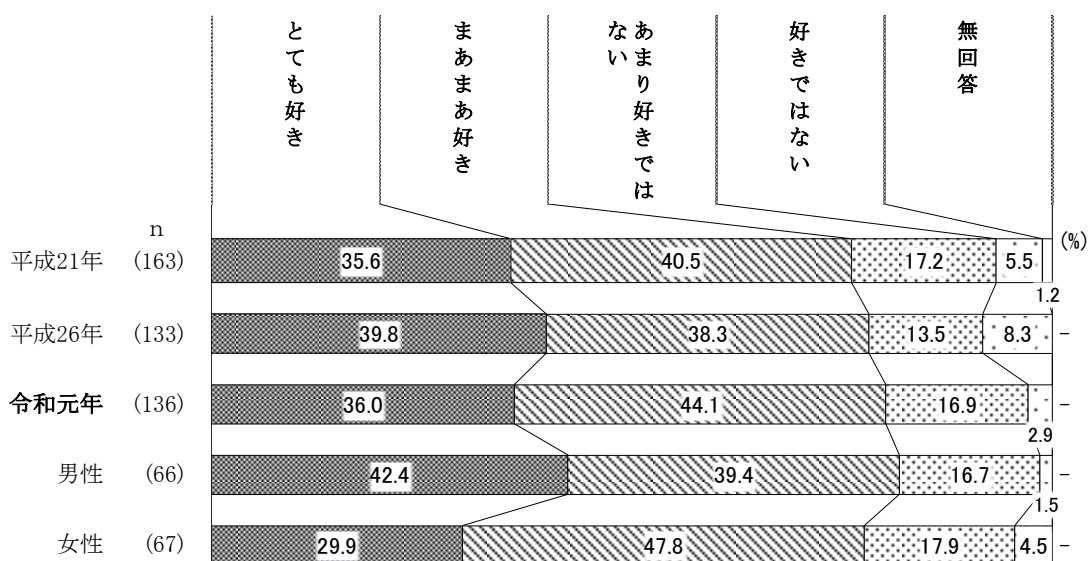
(1) 体を動かすことを好む程度

問21 あなたは、体を動かすことは好きですか。(○は1つ)

体を動かすことを好む程度について、「とても好き」が36.0%で最も高く、「まあまあ好き」(44.1%)を合わせた《好き》は80.1%となっている。

平成26年との比較では、「まあまあ好き」が5.8ポイント高くなっている。

性別で見ると、《好き》に大きな違いはないが、「とても好き」は男性の方が女性より12.5ポイント高くなっている。



※平成21年調査では、設問文は“歩くことや運動することは好きですか。”としていた。

(2) スポーツの実施状況

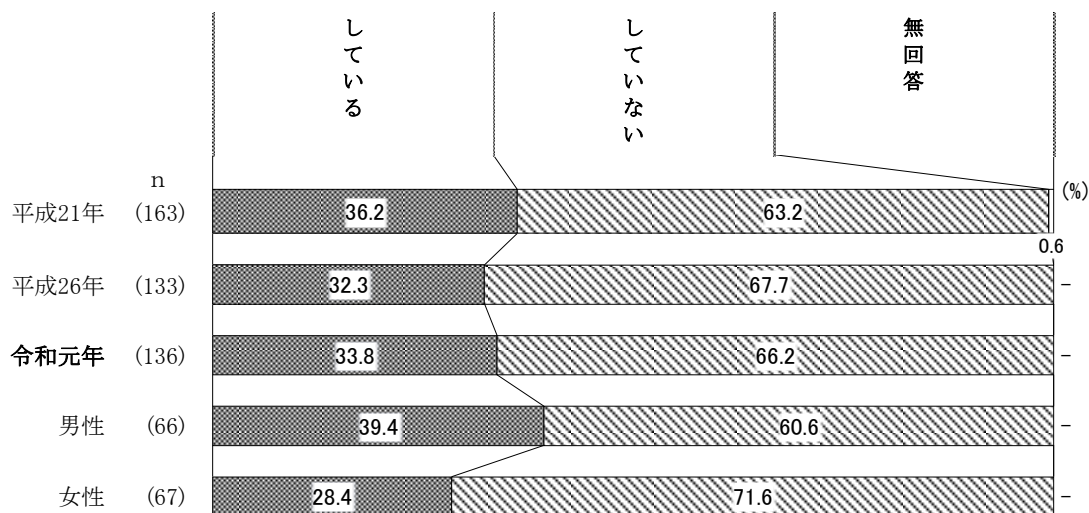
問22 あなたは、クラブ活動・スポーツクラブなどで、スポーツをしていますか。

(○は1つ)

クラブ活動などで、スポーツをしているかについては、「していない」が66.2%で高く、「している」が33.8%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「している」は男性の方が女性より11.0ポイント高くなっている。



※平成21年調査では、設問文は“クラブ活動などで、スポーツをしていますか。”としていた。

5 たばこ・飲酒について

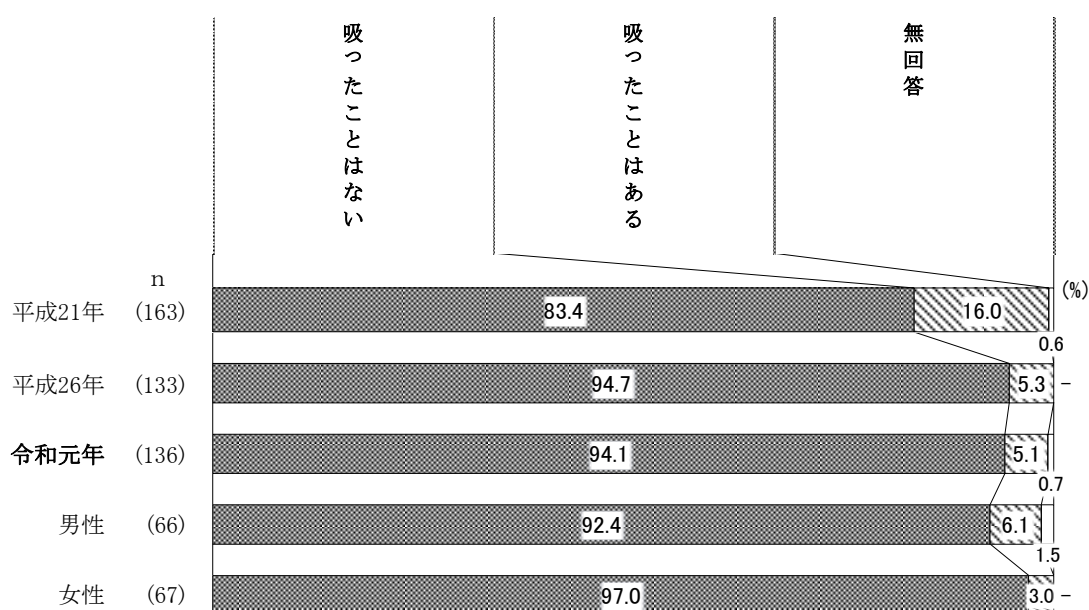
(1) 喫煙の状況

問23 あなたは、たばこ（加熱式たばこや電子たばこを含む）を吸ったことがありますか。
(○は1つ)

喫煙の状況は、「吸ったことはない」が94.1%を占めている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられないが、平成21年と比較すると10ポイント以上減少している。

性別でも、特に大きな違いはみられない。



※平成21年調査の選択肢は、「よく吸っている」「時々吸っている」「吸ったことはある」「吸ったことはない」となっており、上記のグラフでは、「よく吸っている」「時々吸っている」「吸ったことはある」を合わせて「吸ったことはある」としている。

(1-1) 喫煙の頻度

付問23-1 たばこをどのくらいの頻度で吸いますか。(○は1つ)

	毎日	今は吸わない	その他	合計
男性	1人	2人	1人	4人
女性	1人	1人	—	2人
性別未回答	—	1人	—	1人
合計	2人	4人	1人	7人

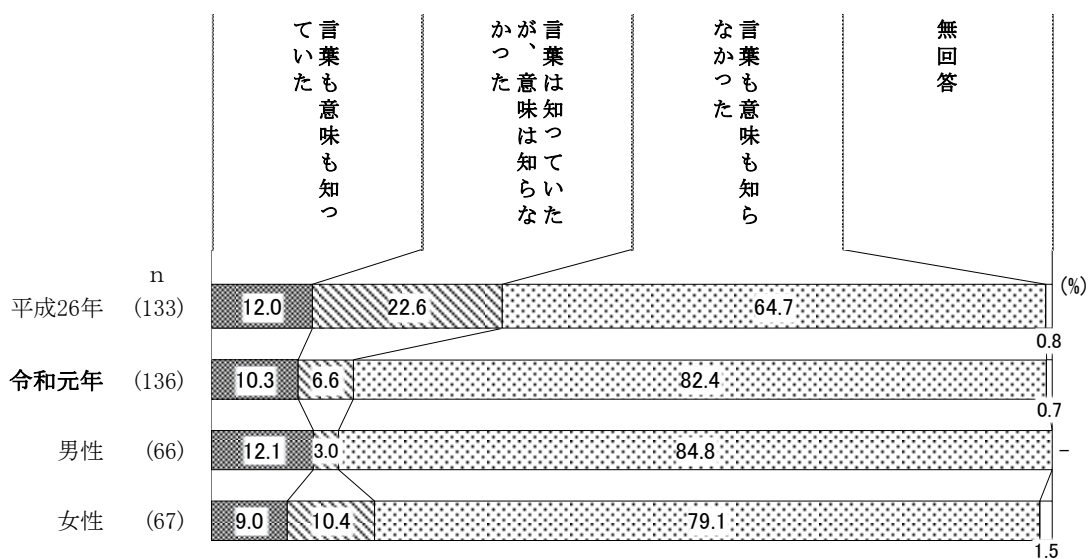
(2)「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」の認知度

問24 あなたは、「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」という言葉やその意味を知っていましたか。（○は1つ）

「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」の認知度については、「言葉も意味も知らなかった」が82.4%で最も高く、「言葉も意味も知っていた」は10.3%、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が6.6%となっている。

平成26年との比較で見ると、「言葉も意味も知らなかった」が17.7ポイント増加した。

性別で見ると、「言葉も意味も知らなかった」は男性の方が女性より5.7ポイント高くなっている。



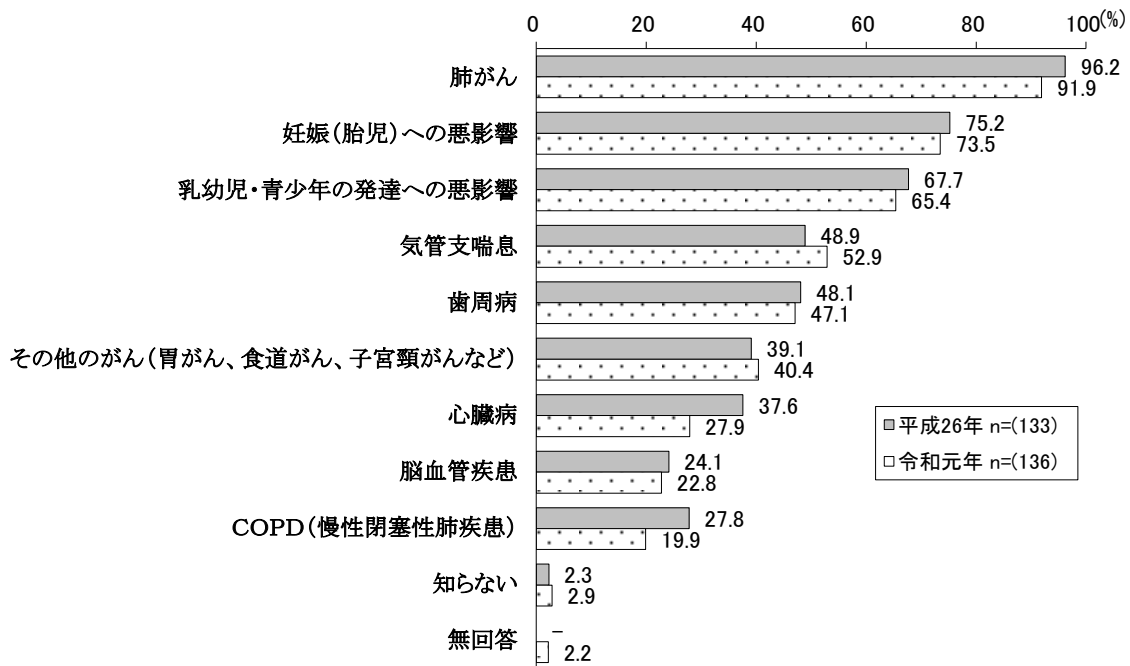
(3) 喫煙による影響についての認知度

問25 次のうち、たばこを吸うと、かかりやすくなる、または影響が出るとあなたが知っているものを選んでください。(〇はいくつでも)

喫煙による影響について知っているものは、「肺がん」が91.9%で最も高く、次いで「妊娠（胎児）への悪影響」が73.5%、「乳幼児・青少年の発達への悪影響」が65.4%などとなっている。

平成26年との比較でみると、「心臓病」で9.7ポイント減少している。

性別でみると、「心臓病」、「脳血管疾患」は男性の方が女性よりともに12.4ポイント高くなっている。一方、「妊娠（胎児）への悪影響」、「乳幼児・青少年の発達への悪影響」、「歯周病」等は女性の方が男性より高い結果となった。



※「気管支喘息」は、前回調査では「ぜんそく」となっていた。

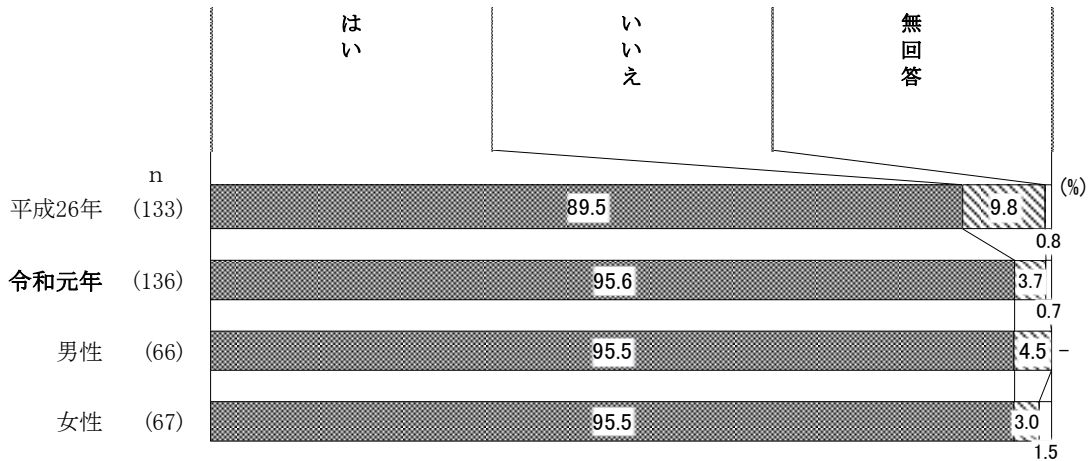
単位: %

	n	肺がん	妊娠(胎児)への悪影響	乳幼児・青少年の発達への悪影響	気管支喘息	歯周病	がん(胃がん、食道がん、子宮頸がんなど)	その他のがん(胃がん、子宮頸がんなど)	心臓病	脳血管疾患	COPD(慢性閉塞性肺疾患)	知らない	無回答
令和元年	136	91.9	73.5	65.4	52.9	47.1	40.4	27.9	22.8	19.9	2.9	2.2	
性別													
男性	66	90.9	59.1	57.6	54.5	37.9	33.3	34.8	28.8	21.2	6.1	1.5	
女性	67	94.0	88.1	73.1	52.2	56.7	47.8	22.4	16.4	19.4	-	1.5	

(4) 「受動喫煙」の認知度

問26 あなたは、「受動喫煙」という言葉やその意味を知っていましたか。(〇は1つ)

「受動喫煙」という言葉やその意味の認知状況について、「はい」が95.6%を占めている。平成26年との比較でみると、「はい」は6.1ポイント増加している。性別では、特に大きな違いはみられない。



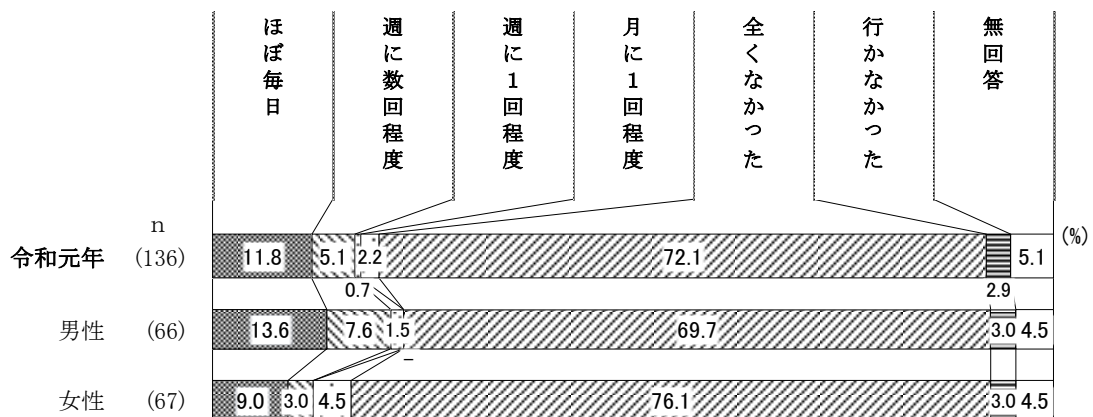
(5) 受動喫煙の機会

問27 あなたは、この1か月の間に、受動喫煙の機会がありましたか。それぞれについてお答えください。(それぞれ〇は1つ)

■家庭

“家庭”での受動喫煙の機会について、「ほぼ毎日」は11.8%となっている。なお、「全くなかった」は72.1%である。

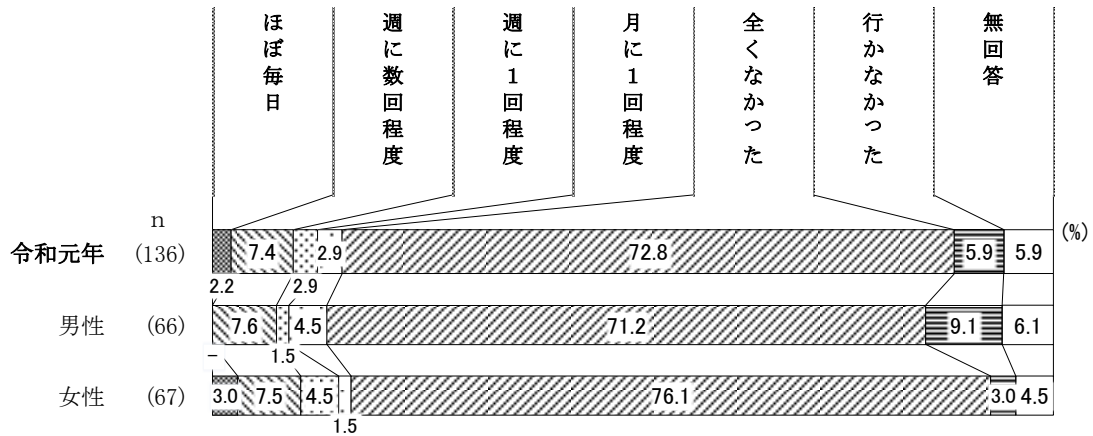
性別では、「全くなかった」は女性の方が男性より6.4ポイント高くなっている。



■職場・学校

“職場・学校”での受動喫煙の機会について、「ほぼ毎日」から「月に1回程度」を合わせた《月に1回以上》は15.4%となっている。なお、「全くなかった」は72.8%である。

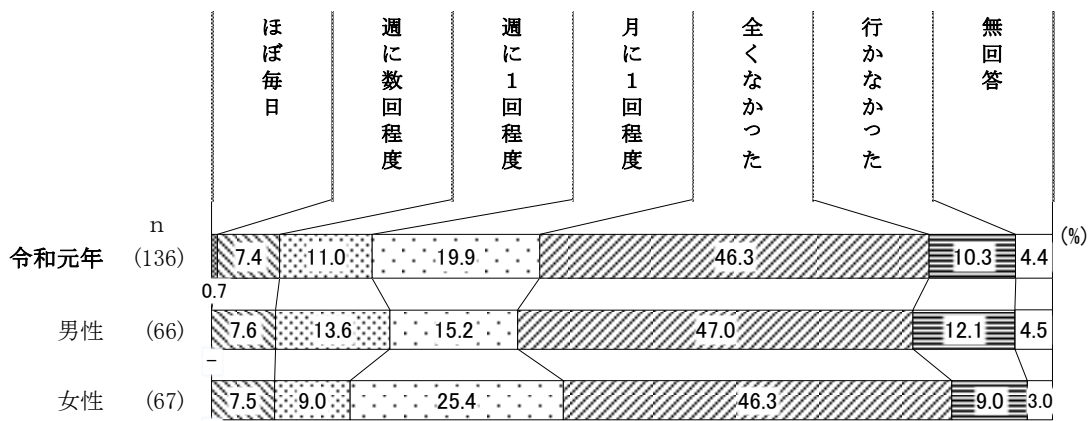
性別では、特に大きな違いはみられない。



■飲食店

“飲食店”での受動喫煙の機会について、「ほぼ毎日」から「月に1回程度」を合わせた《月に1回以上》は39.0%となっている。なお、「全くなかった」は46.3%である。

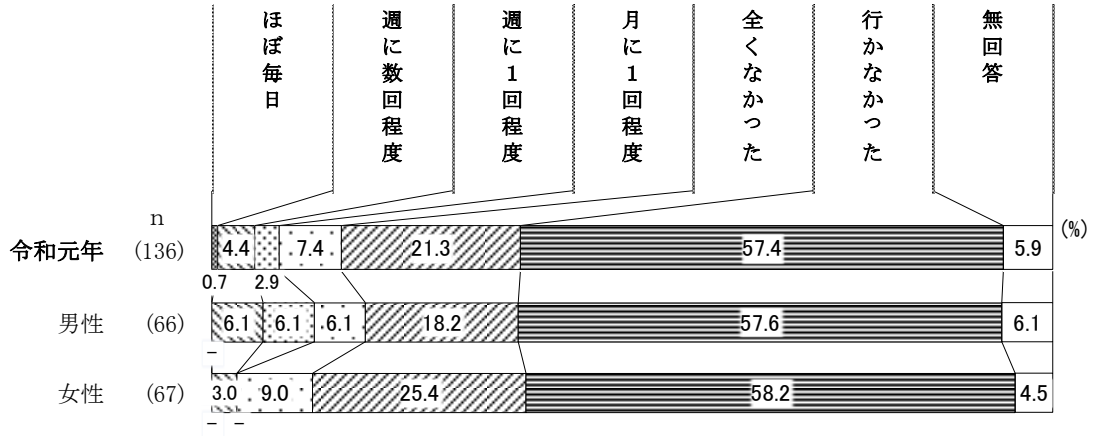
性別でみると、《月に1回以上》は女性の方が男性より5.5ポイント高くなっている。



■遊技場（ゲームセンター、パチンコ、競馬場など）

“遊技場（ゲームセンター、パチンコ、競馬場など）”での受動喫煙の機会について、「ほぼ毎日」から「月に1回程度」を合わせた《月に1回以上》は15.4%となっている。なお、「全くなかった」は21.3%である。

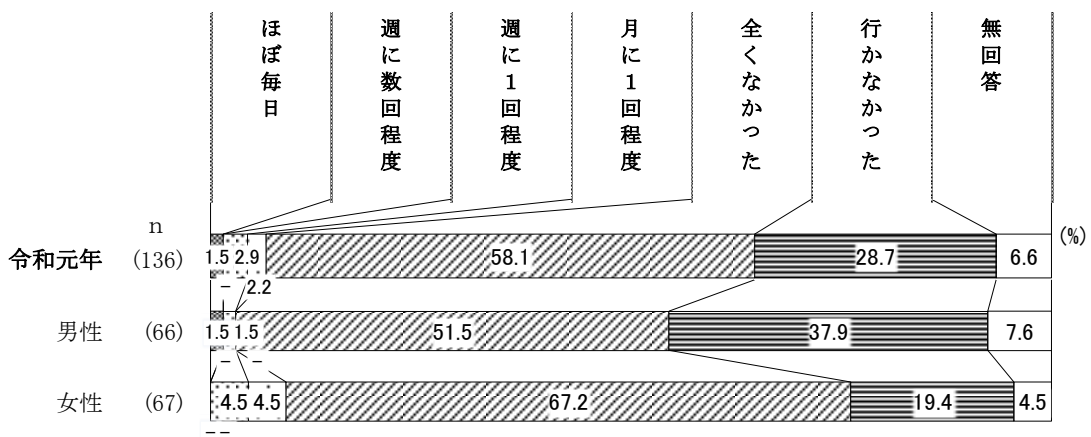
性別でみると、《月に1回以上》は男性の方が女性より6.3ポイント高くなっている。



■マンション等の集合住宅の共有部分（ベランダを含む）

“マンション等の集合住宅の共有部分（ベランダを含む）”での受動喫煙の機会について、「ほぼ毎日」から「月に1回程度」を合わせた《月に1回以上》は6.6%となっている。なお、「全くなかった」は58.1%である。

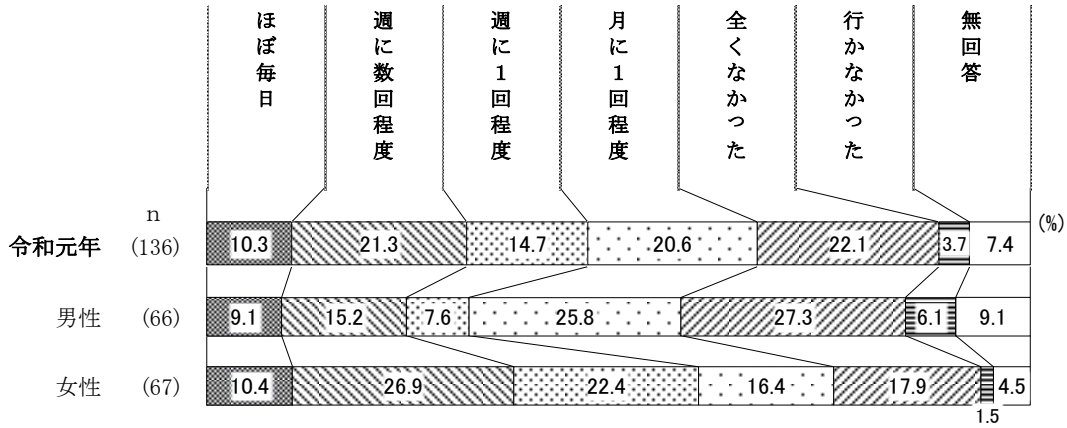
性別では、《月に1回以上》は女性の方が男性より6.0ポイント高くなっている。



■路上

“路上”での受動喫煙の機会について、「ほぼ毎日」から「月に1回程度」を合わせた《月に1回以上》は66.9%となっている。なお、「全くなかった」は22.1%である。

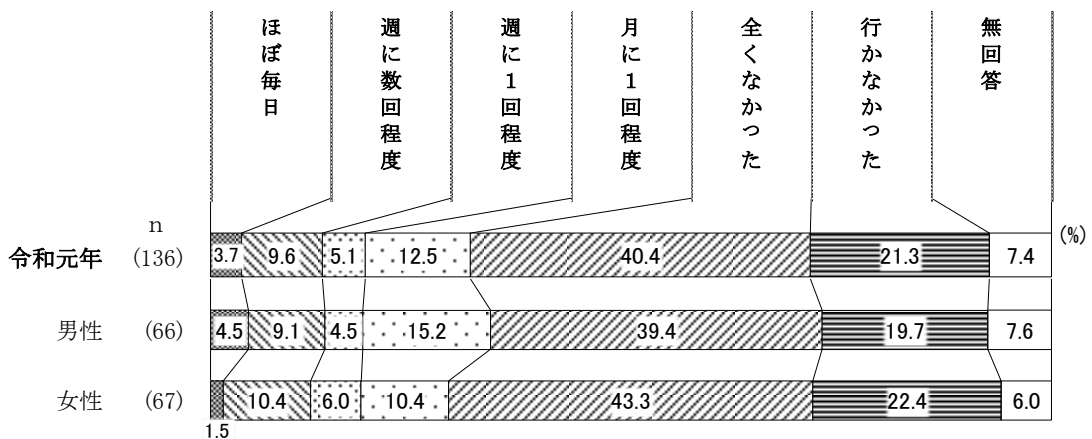
性別で見ると、《月に1回以上》は女性の方が男性より18.4ポイント高くなっている。



■子どもが利用する屋外の空間（公園、通学路など）

“子どもが利用する屋外の空間（公園、通学路など）”での受動喫煙の機会について、「ほぼ毎日」から「月に1回程度」を合わせた《月に1回以上》は30.9%となっている。なお、「全くなかった」は40.4%である。

性別で見ると、《月に1回以上》は男性の方が女性より5.0ポイント高くなっている。

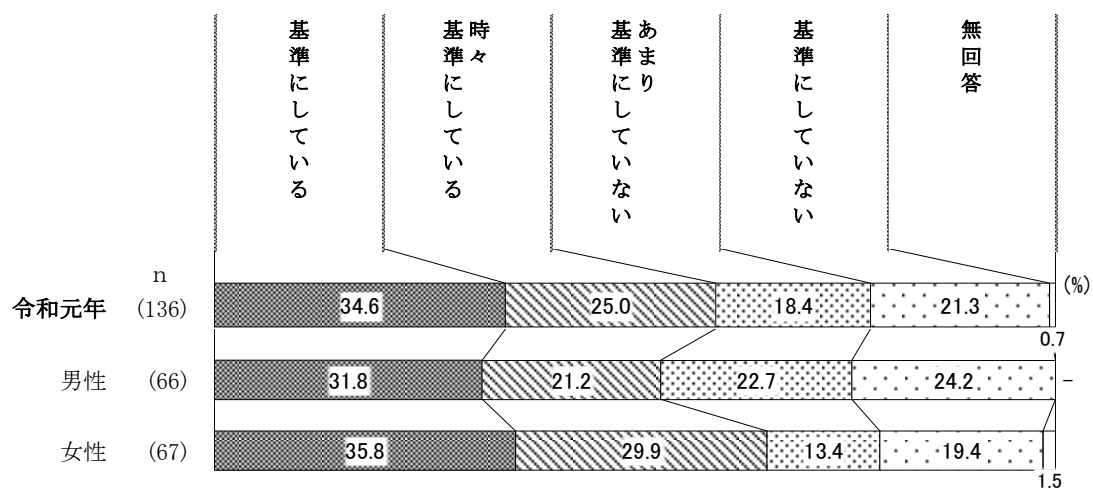


(6) 飲食店を選ぶ際に「禁煙」または「喫煙スペース」に対する基準

問28 あなたは、飲食店を選ぶ際、「禁煙」であること、または喫煙スペースがあることを基準にしていますか。(〇はひとつ)

飲食店を選ぶ際に「禁煙」または「喫煙スペース」について、「基準にしている」が34.6%で最も高く、「時々基準にしている」(25.0%)と合わせた《基準にしている》は59.6%である。

性別でみると、《基準にしている》は女性の方が男性より12.7ポイント高くなっている。



(7) 喫煙に対するイメージ

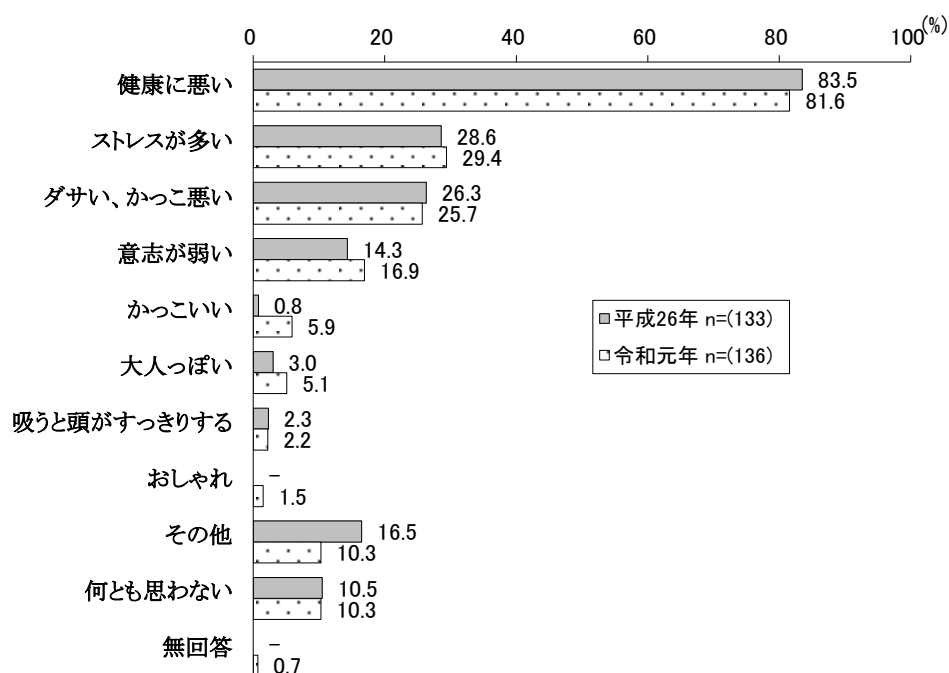
問29 あなたは、たばこを吸うことについてどのようなイメージを持っていますか。

(○はいくつでも)

喫煙に対するイメージは、「健康に悪い」が81.6%で最も高くなっている。次いで「ストレスが多い」が29.4%、「ダサイ、かっこ悪い」が25.7%などとなっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「ストレスが多い」は女性の方が男性より10.1ポイント高くなっている。一方、「意志が弱い」は男性の方が女性より13.7ポイント高くなっている。



単位：%

	n	健康に悪い	ストレスが多い	ダサイ、かっこ悪い	意志が弱い	かっこいい	大人っぽい	吸うと頭がすっきりする	おしゃれ	その他	何とも思わない	無回答
令和元年	136	81.6	29.4	25.7	16.9	5.9	5.1	2.2	1.5	10.3	10.3	0.7
性 男性	66	80.3	24.2	27.3	22.7	6.1	3.0	3.0	-	9.1	12.1	-
別 女性	67	83.6	34.3	23.9	9.0	4.5	6.0	1.5	1.5	11.9	9.0	1.5

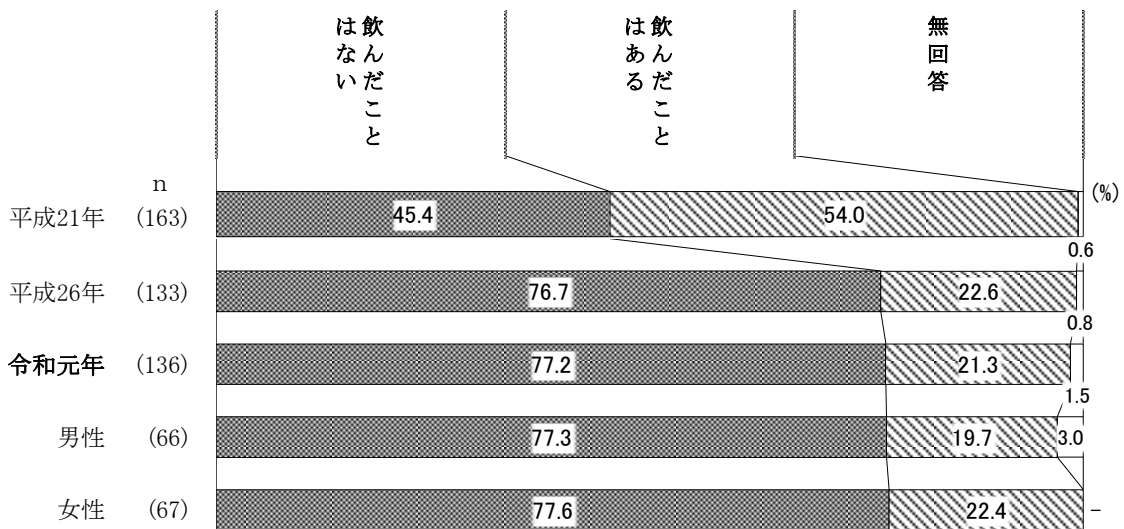
(8) 飲酒の経験

問30 あなたは、お酒を飲んだことがありますか。(○は1つ)

飲酒の経験は、「飲んだことはない」が77.2%で高く、「飲んだことはある」は21.3%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でも、特に大きな違いはみられない。



※平成21年調査の選択肢は、「よく飲む」「時々飲む」「飲んだことはある」「飲んだことはない」となっており、上記のグラフでは、「よく飲む」「時々飲む」「飲んだことはある」を合わせて「飲んだことはある」としている。

(-1) 飲酒の頻度

付問30-1 お酒をどのくらいの頻度で飲みますか。(○は1つ)

お酒を「飲んだことはある」と回答した方の飲酒の頻度は、「年に1～数回」が34.5%で最も高く、次いで「月に1～3回」が27.6%となっている。

性別については、各年代層のnが少ないため、参考として掲載している。

	調査数	上段：人数、下段：%						
		毎日	週に1～3回	月に1～3回	年に1～数回	その他	今は飲まない	無回答
令和元年	29	2	3	8	10	4	2	-
	100.0	6.9	10.3	27.6	34.5	13.8	6.9	-
男性	13	1	2	3	2	3	2	-
	100.0	7.7	15.4	23.1	15.4	23.1	15.4	-
女性	15	-	1	5	8	1	-	-
	100.0	-	6.7	33.3	53.3	6.7	-	-

※性別の分析については回答数が少ないため、参考までに掲載している。

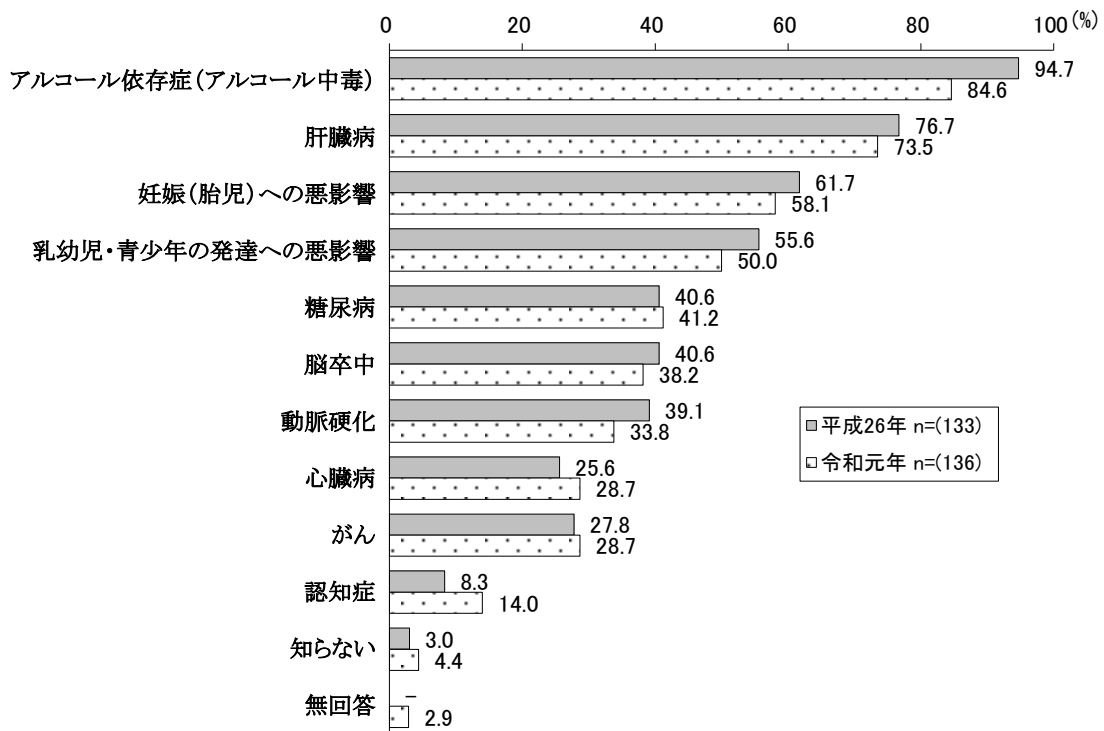
(9) 多量の飲酒を長期間続けることでの影響の認知度

問31 次のうち、多量の飲酒を長期間続けることで、かかりやすくなるもの、または影響が出るとあなたが知っているものを選んでください。(〇はいくつでも)

多量の飲酒を長期間続けることでの影響の認知度について、「アルコール依存症（アルコール中毒）」が84.6%で最も高く、次いで「肝臓病」（73.5%）、「妊娠（胎児）への悪影響」（58.1%）などが高くなっている。

平成26年との比較でみると、「アルコール依存症（アルコール中毒）」が10.1ポイント減少している。

性別でみると、特に差が大きい項目として、「妊娠（胎児）への悪影響」、「乳幼児・青少年の発達への悪影響」は女性の方が男性よりそれぞれ24.6ポイント、17.3ポイント高くなっている。



単位：%

	n	アルコール中毒	肝臓病	妊娠(胎児)への悪影響	乳幼児・青少年の発達への悪影響	糖尿病	脳卒中	動脈硬化	心臓病	がん	認知症	知らない	無回答
令和元年	136	84.6	73.5	58.1	50.0	41.2	38.2	33.8	28.7	28.7	14.0	4.4	2.9
性 男性	66	78.8	69.7	47.0	42.4	40.9	40.9	30.3	27.3	28.8	13.6	7.6	3.0
別 女性	67	91.0	77.6	71.6	59.7	43.3	35.8	38.8	31.3	28.4	13.4	1.5	1.5

6 感染症予防について

(1) 帰宅時や食事前の手洗いの状況

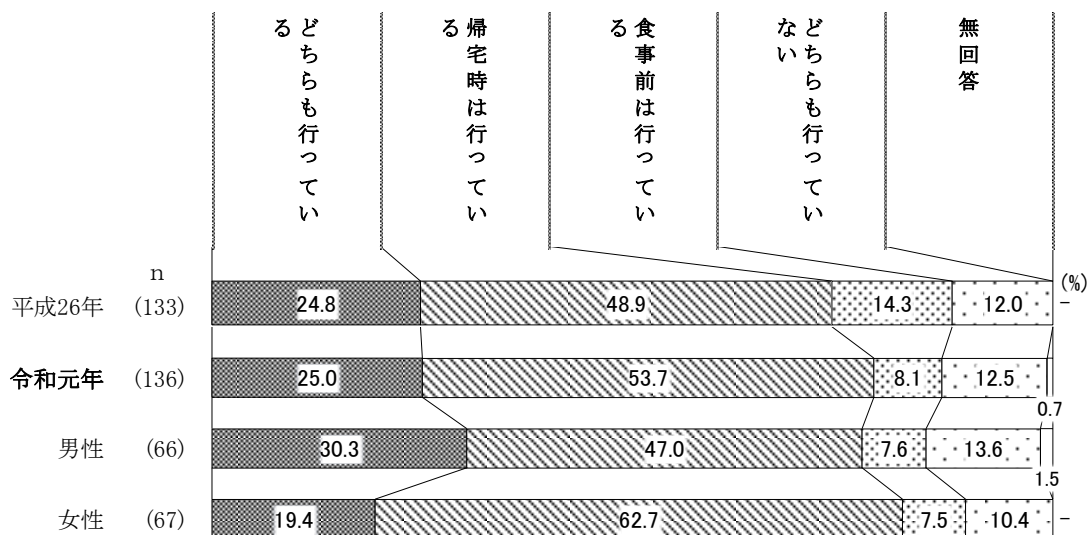
問32 あなたは、感染症予防のために、帰宅時や食事前にいつも手洗いをしますか。

(○は1つ)

感染症予防のための帰宅時や食事前の手洗いの状況について、「帰宅時に行っている」が53.7%で最も高く、「どちらも行っている」(25.0%)と合わせた《帰宅時に行っている》は78.7%となり、《食事前に行っている》は33.1%となる。

平成26年との比較で見ると、「どちらも行っている」に大きな違いはみられないが、「食事前は行っている」は5.2ポイント増加している。

性別で見ると、《食事前に行っている》は男性の方が女性より11.0ポイント高くなっている。



(2) 感染症予防のための咳エチケットの心がけ

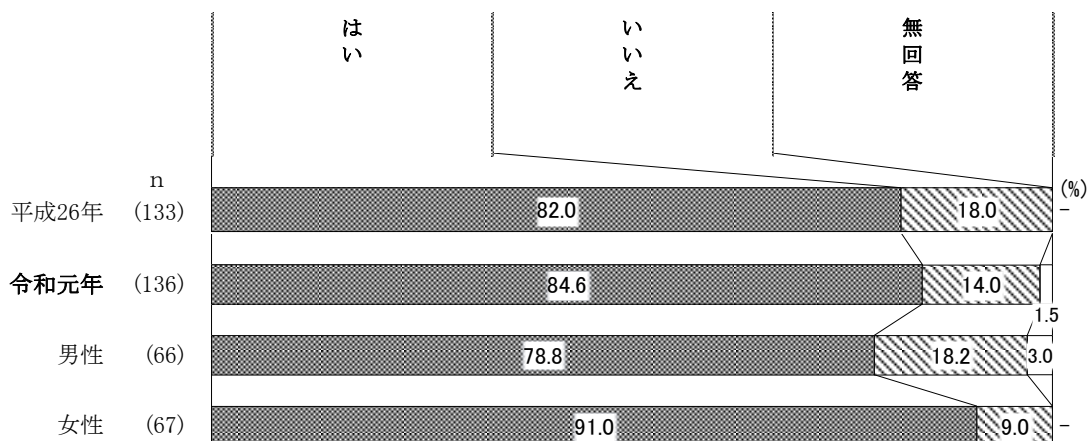
問33 あなたは、感染症予防のために、咳エチケットをいつも心がけていますか。

(〇は1つ)

感染症予防のための咳エチケットを心がけているかについて、「はい」が84.6%で「いいえ」が14.0%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「はい」は女性の方が男性より12.2ポイント高くなっている。



【咳エチケットとは…】

病気の有無に関わらず、普段からせき・くしゃみが直接人にかからないようにすることです。(せき・くしゃみをするときは、ティッシュなどで口と鼻をおおったり、せき・くしゃみが続くときはマスクをするなどです。)

7 日ごろの健康づくりについて

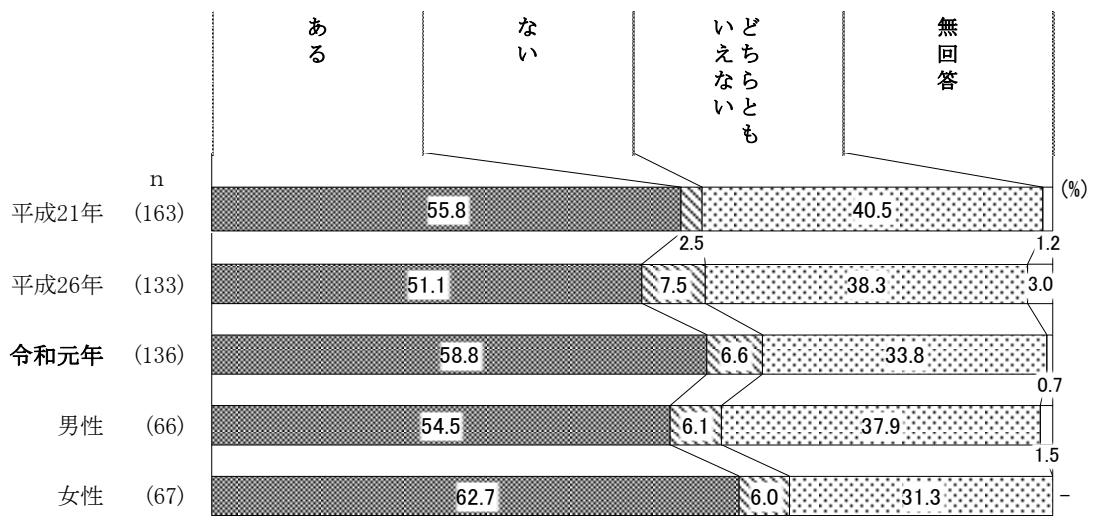
(1) 自分の健康への関心度

問34 あなたは、自分の健康に関心がありますか。(〇は1つ)

自分の健康の関心度は、「ある」が58.8%で最も高く、「ない」は6.6%、「どちらともいえない」は33.8%となっている。

平成26年との比較では、「ある」が7.7ポイント高くなっている。

性別でみると、「ある」は女性の方が男性より8.2ポイント高くなっている。



8 健康づくりに関する意見、行政への要望について

(1) 健康づくりに関する意見、行政への要望について

問35 健康づくりに関するご意見、行政への要望等ご自由にお書きください。

ご意見を自由に記入していただいたところ、延べ44件の貴重な意見をいただいた。

ここでは、意見や要望を分類し、その内容別に記載した。一人の回答が複数の内容に渡る場合には、複数回答として、それぞれの内容として数えている。

(計：44件)

1. 環境	22
○禁煙に、歩きたばこ禁止	12
○喫煙所の工夫、分煙化	7
○その他 草刈り、排ガス、電柱、自転車道拡幅	3
2. 運動施設等	6
○施設、公園を増やす	2
○無料、安く利用できるようにする	2
○高校生用の施設	1
○施設の整備	1
3. 医療、健診	3
○学生は無料に	2
○治療法がわからない	1
4. 健康イベント、講座	2
○地域活動の環境づくり	1
○健康料理教室	1
5. 健康意識、心がけ	2
○スマホの見過ぎ	1
○仕事をしながらの健康法	1
6. その他	9
○具体的な取組提案	2
○感謝、満足	2
○その他 先生の労働時間、アンケートについて、コンビニについて	5